昭和44年12月23日第３種郵便物認可昭和48年１月１日発行毎月１回１日発行

日本バドミントン協会

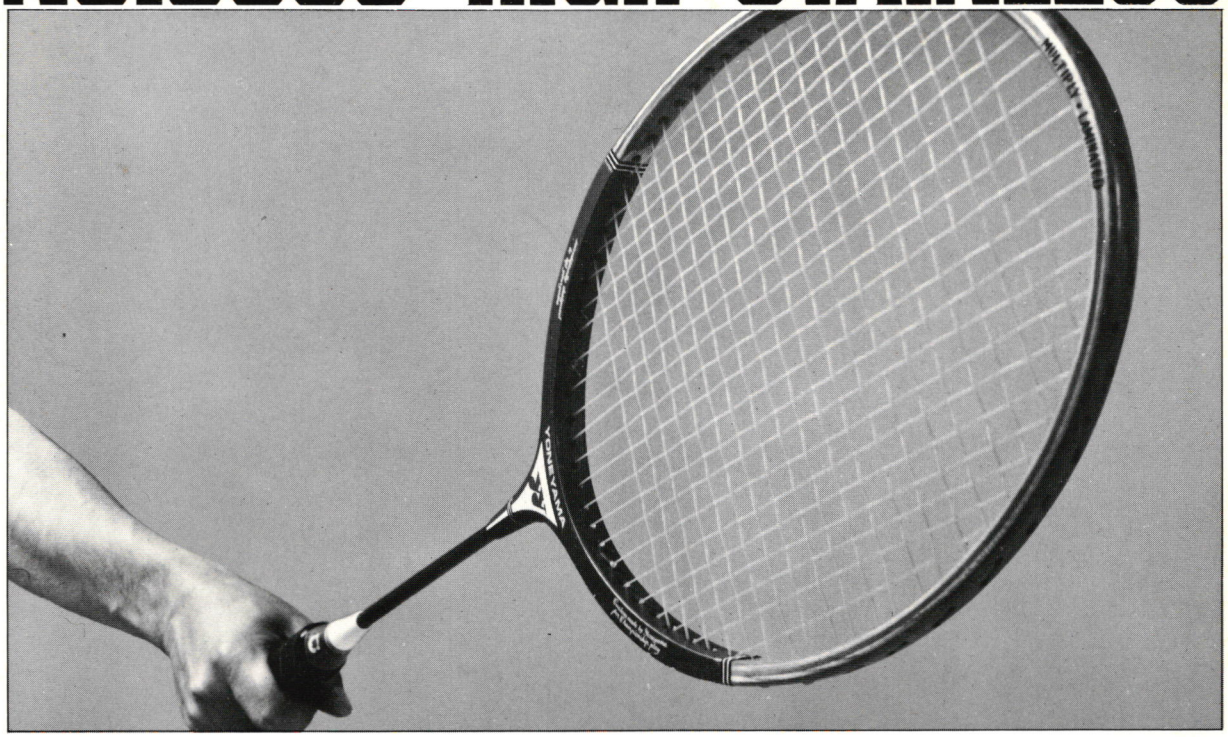
バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

40 JANUARY 1973



No.9000 HIGH STAINLESS



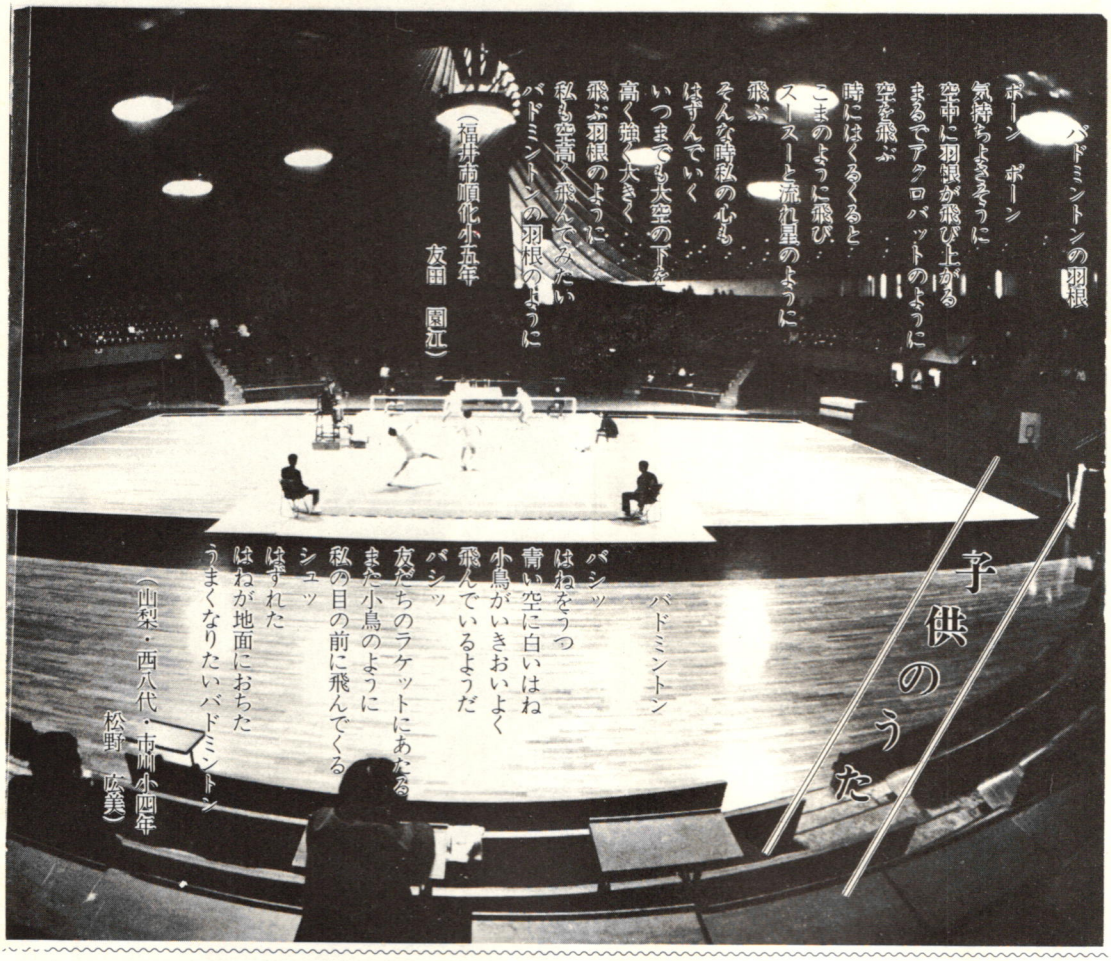
未知のちからを隠しもつ

ステンレスのシャフト

しぶとい弾力。まったく鋭い切れ味。瞬間に炸裂する攻撃力。いままでのバドミントンラケットでは、とても出せなかった鮮烈なパワーです。シャフトにステンレスの特性を生かしきってありますから、難度の高いテクニックも思いのまま。これぞ、バドミントンを科学するヨネヤマの、新しい自信作です。その名をハイステンレス。その真価は、世界に点在する一流プレイヤーたちに問いたい。

No.9000ハイステンレス/¥3,800(フレームのみ)

ヨネヤマラケット



子供のうた

バドミントンの羽根
ポーン　ポーン
気持ちよさそうに
空中に羽根が飛び上がる
まるでアクロバットのように
空を飛ぶ
時にはくるくると
こまのように飛び
スースーと流れ星のように
飛ぶ
そんな時私の心も
はずんでいく
いつまでも大空の下を
高く強く大きく
飛ぶ羽根のように
私も空高く飛んでみたい
バドミントンの羽根のように
（福井市順化小五年　友田　園江）

バドミントン
パシッ
はねをうつ
青い空に白いはね
小鳥がいきおいよく
飛んでいるようだ
パシッ
友だちのラケットにあたる
また小鳥のように
私の目の前に飛んでくる
シュッ
はずれた
はねが地面におちた
うまくなりたいバドミントン
（山梨・西八代・市川小四年　松野　広美）

バドミントン界

〈48年1月号〉

【特集】47年度全日本総合選手権大会
・復活した〝小さなチャンピオン〟小島一平……3
・女子にホープは目白押し……6
・〝脱中山〟から世界の湯木へ……9
・記録詳報、各種目評、こぼれ話……2
・あとは任せておいて――写真グラフ……17

【時の話題】
・新登場「シリーズ人間」シャトルで取り戻した希望の人生……10
・アマチュアリズムとはなにか〈男子バレー事件に考える〉……14
・部別制で参加者の増加を〈インカレのあり方〉……26

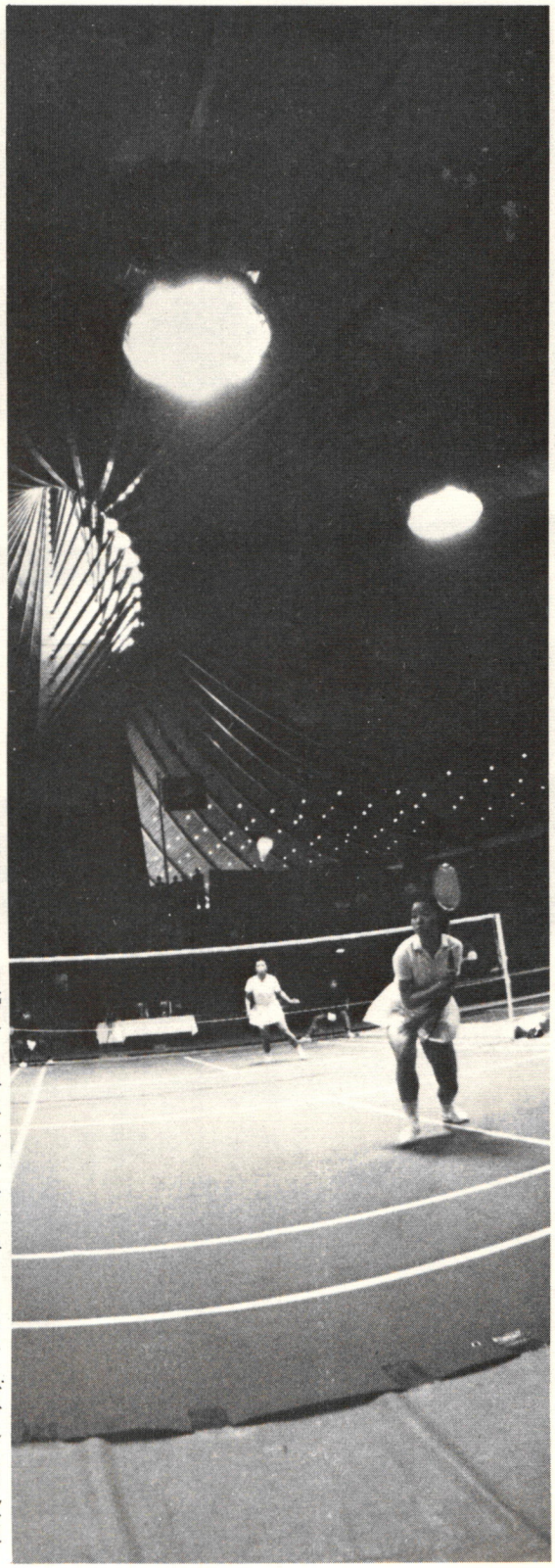
【百万人のバドミントン上達法】
・バックの好レシーブの秘密〈河村選手の巻〉……28
・〝恵まれすぎた環境〟では伸びぬ……30
・驚くべき学生選手の非力さ……31
・初歩からの体力づくり〈サーキットのすべて〉……32
・大会運営規定100問〈第4回〉……35
・レコード〈全日本総合、国体ほか〉……36
・今月の言葉〈一日はだれでも24時間〉……40
・次号予告……40　・編集室……40
・詩……1　・目次……1

スタッフ／表紙撮影・松井亮麿／同製作・小浜正道／グラフ写真・山田真市／その他の写真・山田真市、学連関係者、寄稿者／編集・明本薫／庶務・本島道子／協力・日本協会事務局、各加盟団体、愛読者

〝不屈〟の小島、返り咲く

単は六度目（史上初）複、秋山と四度目の栄冠

女子順当に湯木、相沢・竹中の〝世界〟組



昭和47年度全日本総合選手権大会

昭和四十年年度の全日本総合選手権大会は、十二月十三日から五日間、東京（西ヶ丘体育館と国立代々木第二体育館の二会場）で行なわれた。

男子シングルスは、前年のチャンピオン梅野尾（ヨネヤマ）が準決勝で敗退。決勝はベテラン小島（ヨネヤマ）と若手の代表・本間（トヨタ自工）の争いとなり、小島がストレート勝ちで二年ぶり六度目の王座についた。シングルスの六度優勝は男女を通じて初めてで史上最多。同ダブルスでも小島は秋山（秋山紙店）と組んで今泉・河村組（高岡市役所）を破り、三年ぶり四度目の栄冠に輝いた。

女子シングルスは中山（弘文堂）が欠場。湯木博江（カワサキ）が学生チャンピオン西尾（日体大）をくだして三年ぶり二度目、同ダブルスは〝世界〟の相沢・竹中組（ヨネヤマ）が二年ぶり四度目の、それぞれ女王となった。混合ダブルスは堺・天野組（カワサキ、東海女短大教）が3連勝を飾った。

注　記録詳報は巻末に

復活した“小さなチャンピオン”
小島一平



〝小さなエース〟といわれる。公称は少し水増しして（身長）1㍍60㌢。風ぼうも、どことなくあどけない。だが、コートでは別人のよう。牛若丸のように飛び回り、豪快なジャンピング・スマッシュを決める。話はタイトルを奪回したばかりの全日本選手権のことから始まった。

――ストレートの優勝決定おめでとう。タイトル奪回のカゲに、なにかエピソードがあると思うんだが…。

「前回は準決勝で本間選手にさんざん粘られ、栂野尾選手との決勝ではスタミナが続かなかった。ちょうど結婚した年で、連覇がとまったあと、いろんなことをいわれた。そこで〝よし、みてろ〟と思ったんです。スタミナをつけるため、毎朝五時に起きて、横浜・洋光台付近を約8㌔ランニング。大会二週間前からは酒、タバコを断ちました」

――練習はどんなぐあいに…

「会社の仕事がすんでから電電東京、三菱横浜などの体育館を使わせてもらったり〝学校開放〟をしている横浜・根岸中に通ったり、〝渡り鳥〟をしました。これは気分転換になるし、天井の高低など、どんな会場の条件でも動揺せずにやれる点で効果がありました」

――ところで、新年を迎えてどんな課題に取り組むつもり…

「やはり、全英5連覇を成しとげたハルトノ（インドネシア）を打倒することです。ボクは国際試合ではほとんどの外国勢を破ってきましたが、ハルトノは別格。四十二年の全日本で一度勝ったあとは、やられっぱなしです。こんどの全英選手権（三月、ウェンブレー）では〝最後のチャンス〟と思って挑戦します。そのためにも、正月早々からトレーニングです」

この夏パパになったばかりのチャンピオンは、負けん気が人一倍。〝不世出〟といわれるハルトノについても「一昨年のデンマーク選手権では、マッチポイントまで追い込んでいる。ネットぎわで勝負します」といい切った。

女性上位の日本バドミントン界でただ一人、気を吐こうとしている男である。

（サンケイ新聞・木村照夫）

本間、今度も〝返り討ち〟
森田（栃木）の健闘目立つ

男子シングルスはエントリー32人、出場31人（辻＝奈良・添上高は棄権）。高校生はほかに4人が参加したが、レベルの高い大会だけに、全員一回戦で討死した。インタハイの〝三冠王〟で高校ナンバーワン中井（正強）が出ていたら、と残念な気がする。

男子では、若手長身選手が何人かおり、どこまでやるか注目されたが、谷口（立大）は本間（トヨタ自工）に、銭谷（中大）は小島（ヨネヤマ）に、いずれも二回戦で当たって敗退。学生チャンピオン遠藤（日大）も前陣のうまい今泉（高岡市役所）にフルゲームのすえ黒星を喫した。

結局ベスト8に残ったのは、学生界では、このところ鳴かず飛ばずの状態を続けていた長身・尾崎（中大）だけだった。このほか、若手社会人では森田（栃木・盲学校教員）が、教職員大会の余勢をかってベスト8入りしたのが目立った。

上位に進んだ選手の中では、本間が好調ぶりを見せ、あるいは、とも思われたが、かんじんの決勝では、苦手意識があるのか、先輩の小島に押されていいところなく、簡単に寄り切られてしまった。

【男子シングルス】

▽準々決勝

栂野尾昌一（ヨネヤマ）18―15 17―14 池田 信孝（電電東京）
本間 順次（トヨタ自工）15―6 15―3 秋山 真男（秋山紙店）
今泉 勉（高岡市役所）11―15 15―11 15―2 尾崎 幹雄（中大）
小島 一平（ヨネヤマ）15―4 15―12 森田 昇（栃木盲学校教）

▽準決勝

本間 順次 15―2 15―11 栂野尾昌一
小島 一平 15―15 15―7 3 今泉 勉

▽決勝

小島 一平 15―15 15―11 9 本間 順次

決勝評……スコア上からは、かなりの接戦。事実、局部的には本間の持ち味が発揮され、スリリングな場面も何度かあった。しかし、これを大局的に見る

と、ペースは終始、小島のものだったといってよい。

第1ゲームは一方的に14－2。小柄なハンディを見せぬ、角度あるスマッシュ、ドロップ・ショットのコンビネーションを軸に、ミスもほとんどなかった。14－3からレシーブに乱れをみせ、本間に6点の連取を許したが、結局セットポイントをスマッシュで決めた。

だが、小島の小島らしい面が出たのは第2ゲーム中盤からだった。このゲーム、気を立て直した本間が攻撃ペースに乗っていきなり6－3。この分ではフル・ゲームにもつれ込むかとも思われた。しかし、小島はさすがだった。コートをフルに走り球種を変え、コースを変え、左右に広く展開した。

本間はこのゆさぶりをタテの動きで食い止めようとしたが、ウイニング・ショットの〝先取り合戦〟になると、スタミナと粘りに自信のある小島が一枚上手だった。本間のスマッシュが一発で、フォローに欠けたのに対し、小島にはポイントにするまであきらめぬしぶとさがあり、二発、三発と続けて繰り出すスマッシュに本間はレシーブが乱れた。これが逆転の因をつくった。

小島はツナギを大切にし、決めダマのチャンスをつくるまでの過程に〝厚み〟があった。二十八歳で160㌢たらずの小島、二十四で176㌢の本間。数字的条件では本間が有利なはず。じっくり腰を落ちつける辛抱強さがあれば、戦局は変わったろうにと惜しまれる。本間が王座を制するには、肉体と精神のスタミナ増強が不可欠だ。

秋山組、終盤みごとなかけひき

前年優勝の鈴木組は準決勝で敗退　河村組またも涙のむ

男子ダブルスは24組の出場。かつての名手、森・河田組（岐阜・カワボウ、多治見市教委）が二回戦で関西の雄・岩田・滝野組（電電近畿）に敗退したほかは、順当なペアがベスト8に顔をそろえた。さらに準決勝では前年の優勝者・鈴木、池田組が姿を消し、学生ナンバーワンの草島・田所組も力及ばず脱落した。

結局、決勝は二年連続、王座争いに残った今泉・河村組とベテラン同士の秋山・小島組の対決となり、フルゲームのすえ、キャリアを生かし、うまい試合運びを見せた秋山組に栄冠が輝いた。二人は前年、それぞれ別のパートナーと組んで出場、ともに準々決勝で敗れ去っている。今泉組は二年連続の苦杯。

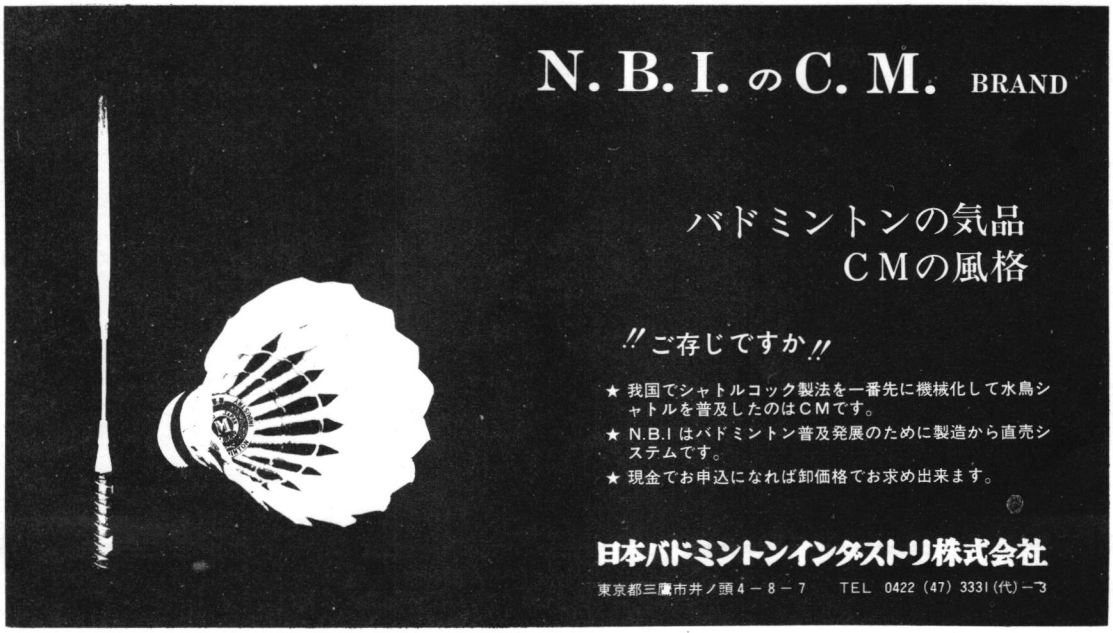
それにしても、一線級では最年長コンビ、しかも、からだが大きくないこのペアが、やっぱり優勝をつかんだこと、それを許した若手の力不足は、秋山組の精進とは別に、ものたりなさを感じさせた。

全体を見渡してダブルスらしいスピード、妙味のあるペアが数少い。日本人はどうも、ダブルス・プレーがヘタなようだ。

【男子ダブルス】

▽準々決勝

鈴木　健二	15－6	宮川　秀樹	
池田　信孝（電電東京）		関　一誠（カワサキ、早大体育局）	
秋山　真男	15－8	本間　順次	
小島　一平（秋山紙店、ヨネヤマ）	15－4	松島　保（トヨタ自工）	
草島　正治	15－7	木戸　純一	
田所　光男（法大）	11－15	椙野尾昌一（ヨネヤマ）	
今泉　勉	15－6	岩田　勇	
河村　博之（高岡市役所）	15－12	滝野　公一（電電近畿）	



▽準決勝

秋山　真男 15－11 鈴木　健二
小島　一平 15－8 池田　信孝
今泉　勉 15－13 草島　正治
河村　博之 15－9 田所　光男

▽決勝

秋山　真男 15－6
小島　一平 9－15 今泉　勉
15－12 河村　博之

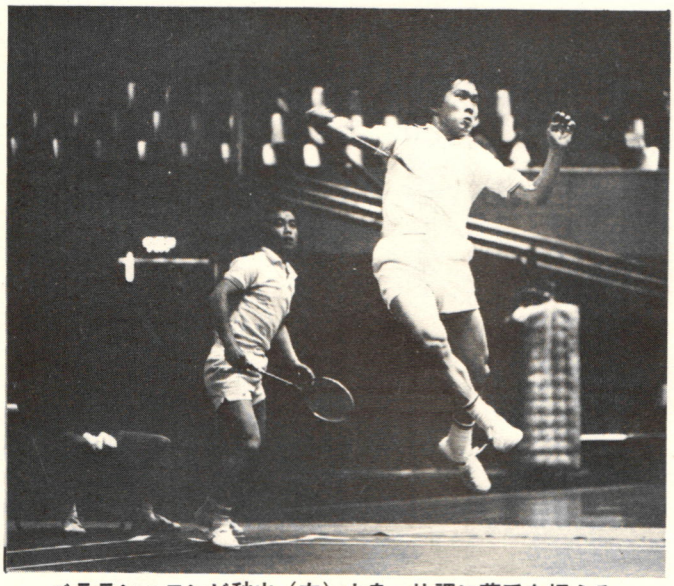
::::決勝評::::ト杯戦で半分は自信をつけ、半分は勝てなかったくやしさを持つ今泉。あれから二ヵ月、リード役・河村の着実なタマ配り、中後陣でのスマッシュという援護射撃もあって、このペア、まことに見事な試合ぶりで決勝まで進んだ。

決勝でも、今泉は小柄なからだ全体を使い、小島に負けぬエネルギーで前陣の速攻を展開、河村がこれを支えてゲームは1オール。もしかしたら、の期待を持たせたが、最後、肝心のところで金星を逸した。

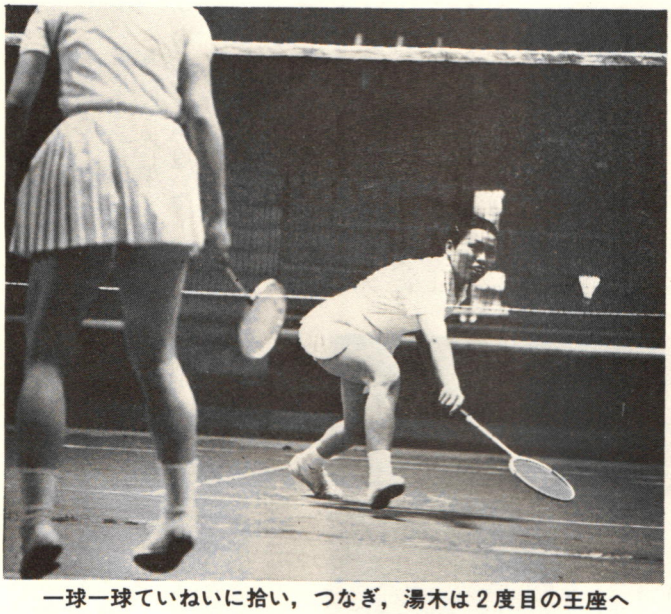
このファイナルは、秋山組がすべり出しよく8－1、10－2と圧倒的にリードした。しかし今泉組、試合をすてず追い上げて10オールから11－12。このムードがあと一歩続けば、10オールの前後、コンビが乱れた秋山組も、どうなったか、保証の限りではない。

しかし、つまづいた第二ゲームで深追いせず、最終ゲームに持ち込んだ秋山組はさすがに巧妙だった。中陣でのラリーは、わずかながらタッチ、コースで相手を上回り、ゲーム中盤からじりじりと今泉にタマを集中した。

この、河村に重い強打の機会をつくらせない配球は終盤ようやく効果を発揮した。12－11から今泉のリターン・ミスが2本続いて14－11とマッチポイント。このあと河村のスマッシュで1点を追加、さらに今泉がプッシュとスマッシュで二度、ポイントを逃げたが、最後、ついにスマッシュ・アウトして万事休した。攻撃の矢面に立った今泉刀折れ矢尽きた感じだった。



ベテラン・コンビ秋山（左）小島，快調に若手を押える



一球一球ていねいに拾い，つなぎ，湯木は2度目の王座へ

若手〝湯木の城〟くずせず

竹中はベスト8で姿消す

女子シングルスは、中山（弘文堂）が欠場、22選手が王座を争った。高校勢は4選手の参加だったが、男子同様、学生・社会人との差は争えず、秋本幸（八代美の妹、四条畷学園）が一回戦で高橋（北辰電機）をくだした以外、白星なく姿を消してしまった。

ユ杯の補欠だった石崎（電電東京）はベスト8入りを待たず谷（日体大）に敗れ、準々決勝では、70年度の全英チャンピオン竹中が、やはりヒザの故障思わしくなく〝未完の大器〟堀川（日体大）にフルゲームで寄り切られた。

決勝は中山欠場のパートから勝ち上った学生チャンピオンの西尾（日体大）と湯木（カワサキ）が対戦したが、湯木が一方的に勝って王座を確保した。

【女子シングルス】

▽準々決勝

西尾真理子（日体大） 11－3 栗原えり子（東女体大）
11－8
堀川栄美子（日体大） 11－5 竹中　悦子（ヨネヤマ）
12－11 11－12

池田　美加（日女体大）　11－5　11－4　谷　美津代（日体大）

湯木　博江（カワサキ）　8－11　11－2　11－3　秋本八代美（日体大）

▽準決勝

西尾真理子　5－11　12－9　11－6　堀川栄美子

湯木　博江　7－11　11－4　12－10　池田　美加

▽決　勝

湯木　博江　11－3　11－7　西尾真理子

女子にホープは目白押し

全日本総合選手権大会の女子は、世界の女王・中山（弘文堂＝十二月下旬で退社）が、おめでたのために欠場。高坂（佐渡汽船）が第一線を退き、柴山、高崎（三菱電機）が足腰の故障で不参加だった。

しかも〝フレッシュ・コンビ〟として人気上昇中の相沢・竹中（ヨネヤマ）も故障上がり。ユ杯代表で、無傷のまま登場したのは湯木（カワサキ）だけだった。いわゆる〝目玉商品〟がない全日本。

ユーバー杯に3連勝、その強さを再認識させた日本の女子バドミントンだが、その再現を期待して集ったファンは、恐らく「なぁんだ」と、がっかりしたにちがいない。事実、盛り上がりの乏しい大会だった。

けれども〝大物不在〟は、逆に、新鋭たちに活躍の場を与えたといえる。もちろん、全日本総合は、出場者の資格がハイ・レベルに限定されており、参加者の数も少いため、新鋭が上位に進むのは、容易ではない。

しかし、たとえ一回戦で敗退しても、見るものが見れば、その中に〝希望の芽〟があるかどうかはわかる。

今度の大会を、審判台の上から、じっくりと眺め、インターハイなどでも若手の活躍に目をくばった遠井稔男氏（日本協会常務理事、指導副委員長）は「次代のホープを」と水をむけると、たちどころに、何人かの名前をピックアップした。

同氏の採点は、次のようなものだった。

★西尾真理子（日体大一年＝シングルス決勝進出、ダブルス準々決勝で相沢組に1－2）

バックハンドの処理と、フォアのネット前のレシーブをマスターすればよくなる。フォアのネット前は、もう一歩の踏み込みが必要ですね。しかし、ネットへのフェイントが全体的にうまいし、勝負強さがある。

★池田美加（日女体大三年＝シングルス準決勝、ダブルスは……**決勝評**……湯木は楽勝した。しかし、いわゆる湯木らしいプレーは出ずじまいだった。もっともその責任の半分は、あっさりくずれてしまった西尾の方にあるだろう。

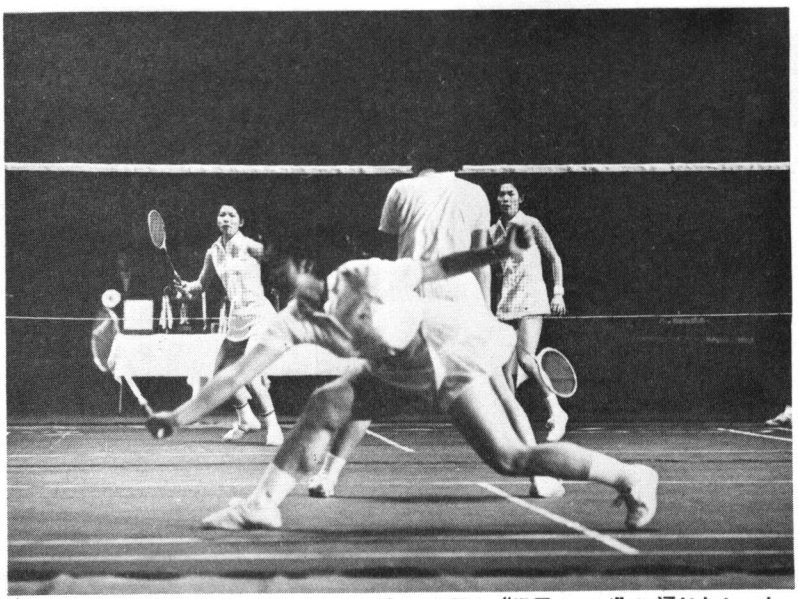
だが、これをもう一つひねって表現すれば、西尾は湯木の〝横綱相撲〟に寄り切られたが、自分のペースで、あるところまで戦った、ということで、双方ともに、少しずつ賞めていい。

湯木のピンチは、むしろ準決勝の対池田戦。相変らずエンジンのかかり方が遅い上、池田の中ば八方破れながら重いスマッシュを浴びて、危い橋を渡った。そのあとの決勝は、相手が一にも二にも押しまくるタイプでないだけに、戦いやすかったともいえる。

勝負は第一ゲームでついた。湯木が珍しく6－0とリード、西尾に焦りがみえる。湯木の四角をきちんと突く配球がさえ、西尾受け太刀になるまでチャンスを待つ。このあたり、湯木に〝風格〟めいたムードがただよっている。

第2ゲーム、西尾ようやく反撃に出て、前陣にタマを落とし相手を誘い込む。くずして強打、くずして強打の戦法だ。7オール。だが湯木のリターンは早く、角度がある。前中陣でのやりとりの中で、一打ごと、シャトルを自分の〝攻めの型〟にひっぱり込む。

今度は逆に、湯木が相手を振っておいて前へ引きずり込む。あっというまに3点を加えマッチポイント。西尾、湯木のバックハンド・ミスで一旦、ピンチをのがれたが、湯木すかさずへアピンでサービスを奪い返す。ここでついに西尾のクリアがアウト。やはり西尾は一年生だった。



女子ダブルス決勝，若さの池田組（手前）の攻撃も“世界コンビ”に通じなかった

決勝進出）

基本がマスターできているので、このまま伸びてほしい。大型だが、バランスがとれているのがいい。いまのところ複の方がうまいが、単でも主力になれる選手、スマッシュだけならトップに匹敵するものがある。ただ、身体のスピードが足りない。これは初動が緩慢な点に表われている。新シーズン開始までに身体のスピードをつけるトレーニングを積まないと、取り返しがきかなくなる。

★谷　美津代（日体大一年＝東海女短大教の天野、電電東京の石崎を破り、単で準々決勝、複も準々決勝進出）

現在の女子陣で一番の大型。しかし、身体のスピード、シャトルのスピードともにあるのがよい。まだプレーが荒っぽいので、今後の課題は、ストロークにコントロールをつけ、小わざをていねいに覚えていくこと。うまく行けば、一番の大物になる素材だ。

★秋本八代美（日体大一年＝茂原高教の池尻、愛知の橋本を破り、準々決勝で湯木とフル・ゲーム。西尾と組んで複準々決勝進出）

バネがあるのが利点だが、それを生かしたフットワークになっていないのは残念。ネット前の読みができていないこと、バック（ことにハイバック）を身につけることの2点が、国際選手として成長するための急務。

さらに遠井氏は、一回戦で池田に敗れたが、徳田敦子（四条畷学園高二年）をあげ「足腰のよさ、カン、センスの点など、素質では〝第二の高木〟になれる」と述べた。そして、次のようにまとめた。

「トップの実力を百とすればこれらの選手は七十から八十点。あとはキャリアの問題で、百点以上も望める。精神面は本人の心掛けしだいであり、ユ杯への自覚があれば、解決できよう。見通しは明るい」

未来も明るい日本の〝王座〟

複でも若さ、キャリアに及ばず

石田組、古谷組らもがんばる

女子ダブルスは23組。無名に近い石田・吉田（日女体大）が堀川・谷（日体大）をくだし、インカレの仇を打った。また一年生の古谷・佐伯（日体大）がベスト8に残ったが、結局は第一、第二シードが順当に決勝へ進んだ。決勝の相沢・竹中組（ヨネヤマ）は故障上りで精彩を欠いたが、池田・塩崎（日女体大）も未完成ペア。キャリアの差で勝負がついた。

【女子ダブルス】

▽準々決勝

相沢マチ子 15－7
竹中　悦子 8－15
（ヨネヤマ）　15－9　西尾真理子（日体大）

石田　雅子 15－5
吉田　孝子 18－16　堀川栄美子
（日女体大）　18－16　谷　美津代（日体大）

古谷　成代 15－12
佐伯　智子　　徳田　敦子
（日体大）　15－5　（四条畷学）

池田　美加 15－2　山森　明美
塩崎　睦子　　陣内　裕子
（日女体大）　15－6　（日体大）

▽準決勝

相沢マチ子 15－3　石田　雅子
竹中　悦子 15－11　吉田　孝子

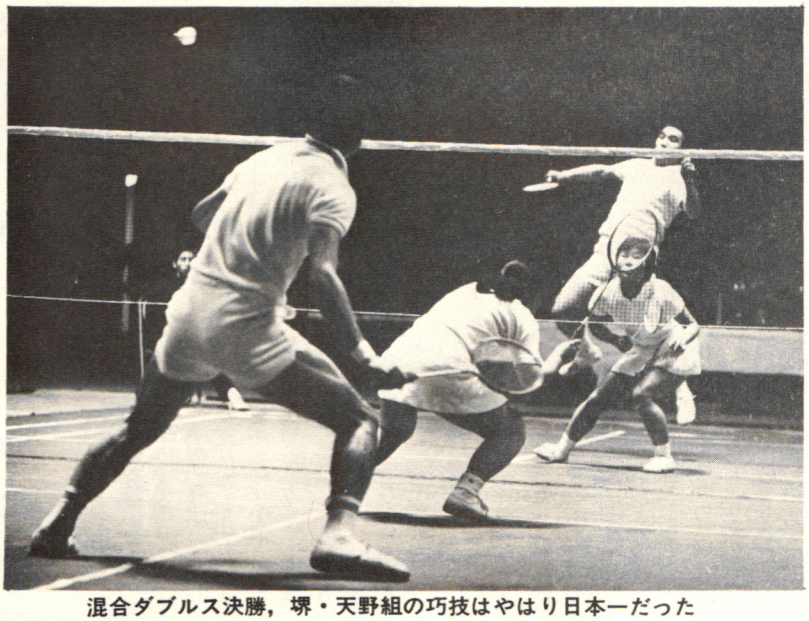
池田　美加 15－8　古谷　成代
塩崎　睦子 15－4　佐伯　智子

▽決勝

相沢マチ子 15－10
竹中　悦子 11－15　池田　美加
15－8　塩崎　睦子

::::**決勝評**::::相沢はユ杯後、椎間板ヘルニアに悩み、竹中も以前痛めた左ヒザがまた故障ぎみ。このため、まだ調子は本物でなく、練習を再開してから一カ月もたっていない。これでは〝世界チャンピオン〟らしい試合を見せろというのが無理だ。動きの悪さは、テキメンにゲーム展開に現われた。タマにスピードが乗らず、コースも甘く角度がない。池田組は学生の東西対抗、インカレ団体、個人戦（個人戦準優勝）とこのところ試合を重ね上り坂だった。

塩崎がタマをつくり、池田が重い強打を放つという図式の学生ペア。コンビの速攻で持つ相



混合ダブルス決勝，堺・天野組の巧技はやはり日本一だった

堺・天野組にっこり3連勝

混合複　さすがはベテラン・コンビ

沢組も、しばしばタマが浮き、第2ゲーム5－1から9点を失って5－10。体力の不安が焦りとなっていた。しかし学生組は若い。ファイナル、相沢組がタマをていねいにつなぎ出すと一発をねらって失敗、9－8の1点差からずるずると自滅した。

混合ダブルスは前年よりぐっと減って9組の出場。なかなか多くの人がペアを組みにくい環境があることは確かだが、残念なこと。日本が国際舞台で活躍するためにも、もっとこの種目を重視、盛んにしたいものだ。

決勝はパートナーを変えた鈴木・石崎（電電東京）とベテラン堺・天野（カワサキ）東海女、短大教）が争い、巧さで定評ある堺組が3連勝に輝いた。



優勝は何度してもうれしいものだが，このペアは本当にうれしそうな顔をする。

【混合ダブルス】

▽1回戦

遠藤　啓治
横尾　節子
（日本鋼管、神奈川県庁）
15－11
15－9
久保田宇作
宮本とよ子
（大宮公園、小松女高教）

▽準々決勝

堺　栄一
天野　博江
（カワサキ、東海女短大教）
棄権
遠藤　啓治
宮本とよ子
（日本鋼管、神奈川県庁）

池田　信孝
阿久津まさ子
（電電東京）
15－4
15－9
藤上　良英
原田　朝子
（野州西小教、しあわせ保育園）

鈴木　健二
石崎　茂子
（電電東京）
15－11
17－15
15－6
杉田　克英
鈴木　幸子
（カワサキ）

佐藤　信夫
高橋　英子
（北辰電機）
15－11
18－16
杉田　博
（立野高校、コロムビア）

▽準決勝

堺　栄一
天野　博江
15－8
15－10
池田　信孝
阿久津まさ子

鈴木　健二
石崎　茂子
15－10
17－15
佐藤　信夫
高橋　映子

▽決勝

堺　栄一
天野　博江
15－11
15－1
鈴木　健二
石崎　茂子



ヘアピン

相沢・竹中らに全英のレプリカ寄贈

○…全英選手権のタイトルをとった相沢・竹中組、中山、湯木の四選手に、純銀製のコンポート（お皿）＝**写真**＝が、全日本選手権の表彰式のさい、日本協会からプレゼントされた。

このコンポートは全英選手権が優勝者に与えられるものとそっくりのレプリカ。日本協会としては、これまで、これら各選手に特別の表彰はしていなかったが「なにかした方がいい」という森友副会長のキモ入りで、ようやく実現した。



全日本の大会第四日、女子ダブルスの表彰の席上、まず相沢・竹中コンビに、光りもまばゆい、この記念品が手渡されたが製作費が四、五万もする高価なものと聞いて「こんなに立派なものをいただいて、アマチュア違反なんていわれないかしら」とちょっぴり心配顔だった。

恒例の選手パーティ盛大に開かる

○…全日本最終日、競技終了後、東京の渋谷の某所で、参加選手たちのサヨナラ・パーティが開かれた。前回から選手有志が企画、会費持ち寄りで始めたもので、貸し切りの小さなスナックは超満員。ノリすぎてマイクを独占した選手もいたとかで楽しい一夜をすごした。

“脱・中山”から“世界のエース”へ

立ち場を自覚，出てきた心・技の幅

全日本総合に2度目の優勝——湯木博江



「私がなにもしないうちに勝っちゃったみたいなもんでしょう。だから…。もっと粘るだろうなあ（相手の西尾が）と思っていたんだけど」第一声は〝勝ってうれしい〟ではなかった。

三年ぶり、二度目の優勝が決まったあとの控え室。汗もかかなかった湯木の声は、少しカン高く、とがって聞こえた。心に屈折したものがあるときの、彼女の特徴である。

報道陣を見上げる表情に、どことなく〝風格〟めいたものが感じられた。一年前には、さがしても、なかった〝なにか〟が花開きつつあった。

春ごろの湯木は、例の強打の威力が、カゲをひそめて見え、その分だけ〝パワーダウン〟したように思われた。だが、ユ杯から全日本へ。この間に、湯木は立派にモデル・チェンジを果たしていたのだった。

一打、一打を大切にし、試合運びが丁寧になっていた。池田との準決勝。経過を振り返ってみると「もし、あの時の一球を焦っていたら」という場面がいくつもあった。

一打の重味を知り、耐えることをおぼえた——だが、彼女をそのように変えた原動力は、なんだろうか。報道陣の見方は、ほとんど一致していた。中山の後継者としての〝自覚〟である。

「中山さんが欠場。竹中さんもヒザの故障で調子が悪いでしょ。満足なのは私だけだもの。勝たなきゃ、おかしい。中山さんと決勝やりたかったのに」

湯木ばかりでない。女子選手のすべては、これまで〝中山という大きなカサ〟の下に入っていた。中山はライバルというには、あまりにも大きな、抜きがたい存在だった。

だが、湯木はいま、そのカサの下から脱け出そうと、スタートを切ったのである。

「そうですね、今までは、中山さんについて行けばよかったから。頼る人がいるから、大丈夫だ、っていう感じがあったでしょ。むかしは、中山さんが相手だと、コートに入っただけで震えたもの」

世界の主要なタイトルを手にした中山は、全日本を、おめでたで欠場した。二十九歳。引退は時間の問題である。次期ユーバー杯（第七回）まで、あと正味二年半。湯木は当然、年次からいっても、日本チームの中心にならなければならない。

〝可愛い子には旅させろ〟という。前回のアジア大会（70年・バンコク）で、日本協会は中山をメンバーから外し、湯木をリーダーにした。この時から湯木の〝変身〟は始まったとみるべきだろう。

ユ杯のことに話が及ぶと、こういった。「ことしは、若い人がずいぶん出てきましたね。ただ、若いだけに、力の配分やなんかが、まだまだ。順調に伸びているから、三年後はきっとやりますよ。」

「でも、西尾さんなんかも、よく練習の相手をしているんですけど、きょうはいつもの半分も力を出していなかった。レベルの違う相手には、もっと積極的にぶつかってこなくちゃ」

「若い人は私を負かそうと一生懸命かもしれないけど、私だって、まだまだ。お互いがそういう気持ちでやれば、日本はもっと強くなると思うんです」

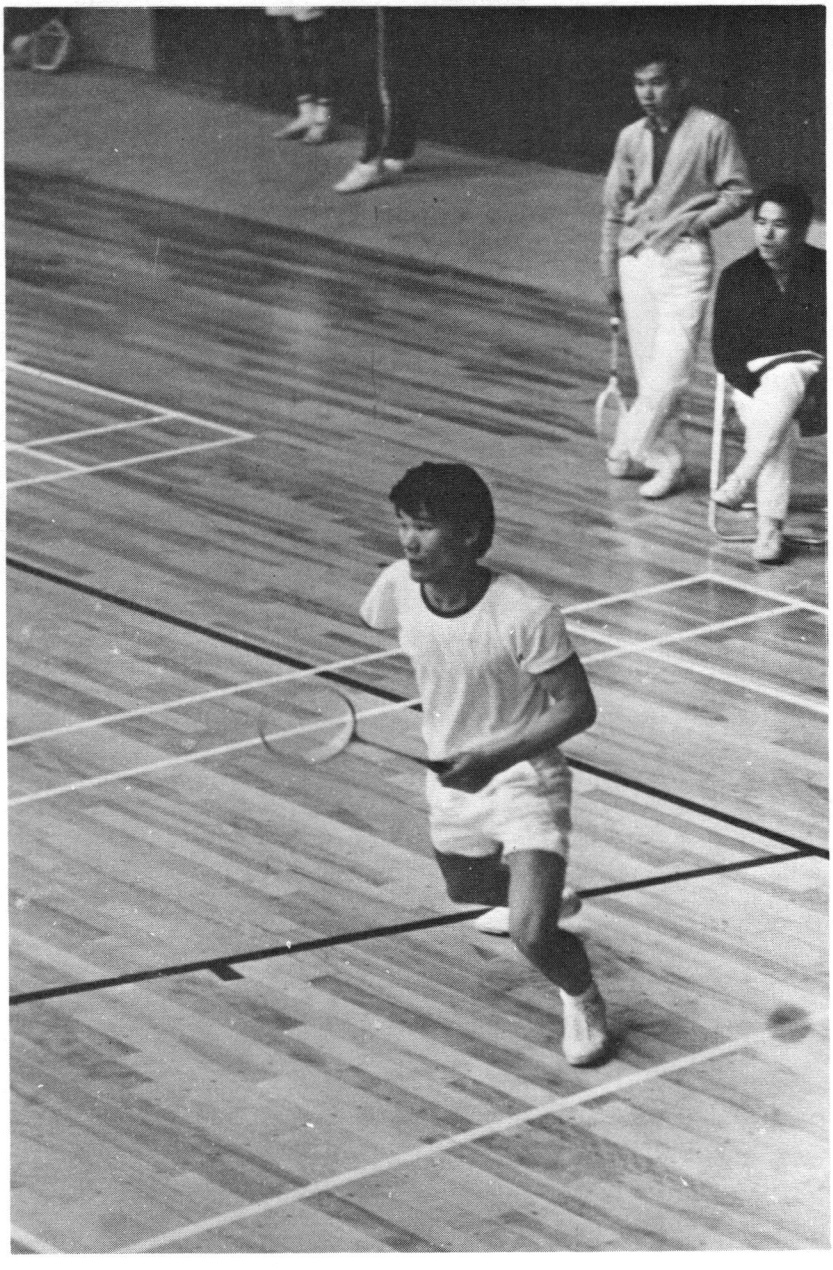
セリフだけ聞けば、中山のことばと間違いそうだった。

「結婚？あ、適齢期ですものね、両親は心配してるんです。でも…性格からいって、私、両立できる自信がないから、結婚したら、バドミントンやめるでしょうね。ユ杯をもう一度とって、その前に全英でもう一度優勝したいですね」

あと一ヵ月、新春には欧州選抜が来日、湯木は白人最強の選手ツェドベリ（スウェーデン）と対決する。脱皮が本物かどうか、テスト第二幕の舞台が待たれる。

り戻した人生の希望

レーヤー渡辺健次君（大阪）



二年ほど前、ＮＨＫテレビの「ドキュメンタリー」番組で、片腕の若者が水泳大会に出場して、けんめいに力泳するシーンをご覧になったことがないだろうか。三つの時に右腕をなくしたその青年が本編の主人公である。ふとした縁で東大阪・ＦＫＣのバドミントンと出会い、青春を取り戻した渡辺健次君。シャトルを追うだけでなく、水・陸、卓球などにも幅広く活躍するその姿は、同じような立ち場にある人々にとってばかりでなく、一般プレーヤーにも、限りない無言の励ましでもある。

シリーズ“人間”

シャトルで取
がんばれ，片腕のフ

文・佐藤茂雄
写真・加藤　稔

〝練習日が待ち遠しい〟
実った仲間たちの熱意と善意

●三歳の時の事故

渡辺健次君、20歳――この青年は鹿児島県の田舎に生まれ、育った。事故にあったのは3歳の時だったという。近所の子供たちとトロッコで遊んでいて、左腕をもぎ取られてしまったのである。

遠い昔のことだ。記憶もさだかではない。だが、ものごころついたとき、すでに片腕になっていた少年の、それからの日々が、希望に満ちたものであるはずはなかった。彼も、その時代のことについて、多くは語りたがらない。

中学を卒業すると同時に、大阪に就職した。なにぶんにも多感な年頃であり、彼の心が、以前にも増して、内向的、閉鎖的になっていったのは、これまた否定できなかった。だが、そのころ――4年ほど前――彼に転機が訪れた。和田泰寛君という一人の青年に出会ったことである。

●和田君との出会い

気さくな和田君は、渡辺君を熱心にくどいた。「ナ、見るだけでええのや」渡辺君自身も、ちょうど、なにかスポーツをやってみたいと思っていたときだった。

和田君にしても、もちろん最初から自信があったわけではない。クラブは市の中央体育館、東体育館を借りて、月に四回（火、火、土、土）練習会をやっている。和田君は約半年の間、練習会の日になると、渡辺君を勤め先の会社まで迎えに行き、自分の運転する車で体育館に連れて行った。

和田君ばかりでなかった。F・K・Cの黒田勝之部長（現市協会理事長）はじめ、クラブ員、市教委関係者、みんなが暖かく迎えた。だが、同情のあまり片腕を意識させるような〝保護〟もしなかった。

「バドミントンいうたかて、ハネつきみたいなもんや。だれにでもやれる」。何度か足を運ぶうちに、渡辺君はクラブになじんできた。見ているだけではつまらなくなり、ラケットを手にした。最初はシャトルをラケットですくい上げるようにしてほうり上げ、打った。

●正式にクラブ員に

もちろん、シャトルは簡単には当たってくれなかったが、慣れるのは時間の問題だった。クリアもスマッシュも、打てるようになった。クラブでは「普通の人と同じように、なんでもすること」を前提として、正式にクラブ員に加えた。

渡辺君は、和田君の自動車での送り迎えを、自分から断わった。そして、ショルダーバッグにラケットを入れて、電車で体育館に通うようになった。

× × × ×

東大阪市は、いわば〝バドミントンの町〟である。市協会は設立15年を迎えた。春、秋の選手権大会、会長杯争奪戦が定例行事となっており、各試合に延べ二百五十人、年間千二百人もの人が参加する。五十万都市としては、かなりの動員数といってよい。

●バドの町とFKC

もちろん、講習会等も盛ん。市教育委員会体育振興課の協力を得て、四十二年から月に4回協会主催の練習会を、四十三年からは市教委が主催して〝ママさんバドミントン〟を月に2回開設している。計月に6回の練習のために道具、シャトル、会場費等は一切、無料でやっていただいている。

また、四十五年春からは一般男女の試合は、女子は2部、男子は3部制を採用したため、参加者がますます増加の傾向にあるし、中学生には教育的な面を考え、参加者全員に参加賞をやっている。

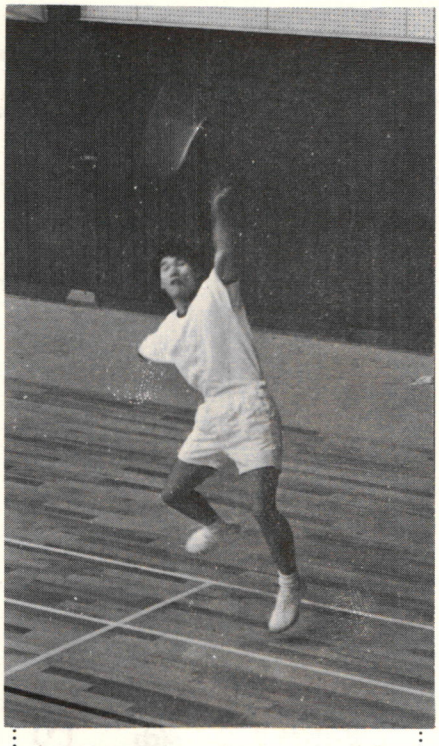
× × × ×

話が脇道にそれたが、このよ

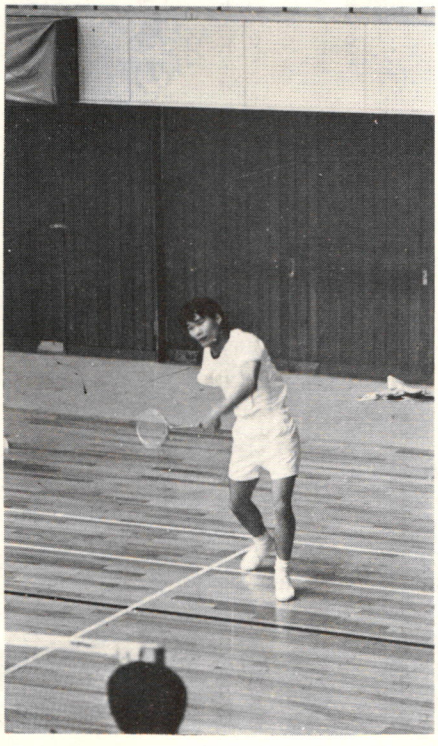
うな土地がらの東大阪市に出会ったことは、渡辺君にとっても幸運だったといえる。

FKCは三十八年十一月の発足。近く満十年を迎える。「バドミントンの普及を目的に、現部長の黒田君が設立した。月額千円の会費でクラブの運営に当り、メンバーは現在三十人（男子二十人、女子十人）。

結婚、転勤などでバドができなくなっても、OB、OGとして参加、年に一、二度は定期的な会合を持っている。FKC杯争奪戦を年に三回行うほか、親睦をはかるため、ハイキングや一泊の臨海・林間旅行行事などを定例化している。年4回発行（季刊）の機関誌「FKC鷹」もあり、ユニークなクラブだ。



あれから4年，スマッシュ，クリア，なんでも打てるようになった渡辺君は市民大会でも大活躍している。



●社長も全面的応援

このようなクラブの正式メンバーになって渡辺君も、毎日の生活に張りざ出てきた。勤務先、マルニ工業の西岡社長は大阪市生野区の身体障害者連盟の会長で、全面的に渡辺君を応援してくれる。大会に参加する前には朝礼で励まし、帰ってくれば賞状、賞品を高く差し上げて、みんなの前で伝達し、労をねぎらってくれる。

渡辺君が市民バドミントン大会に参加し始めてから、もう三年になる。

「自分でも明るくなったと思う」「練習日が待ち遠しい」「みんなと会っての練習がとても楽しい」「もちろん、今後もずっとやり続けたい」という渡辺君。だれでも知っての通り、バドミントンはやってみると、なかなかむずかしい。渡辺君もそうで、これまでの最高成績は市民大会3部一般男子ダブルスの3位。

●水陸などでも活躍

しかし、スポーツに自身を持つようになった彼は、時間を見つけては陸上、水泳など他の競技にも精を出すようになった。

大阪府身体障害者大会水泳の部50㍍、陸上100㍍で目下、3連覇の最中だし、卓球の部でも四十六年度優勝、四十七年度第2位。さらには、さる十一月、鹿児島国体終了後、同地で開催された全国大会にも出場し、水泳2位、陸上3位と上位入賞をはたした。

× × ×

渡辺君のような身体障害者は全国に数十万人もいると聞く。中には、ややもすれば内向的、消極的になりがちな人も多いのではあるまいか。皆さん、スポーツをやって下さい。ボウリングでも卓球でも、バドミントン、なんでもけっこうです。「やればできる。自信を持とう」と渡辺君もいっている。

●渡辺君に負けるな

大勢の人といっしょにいるだけで、心がやすらぎます。スポーツを通しての友人関係、そこには必ず、人間としての心の触れ合いがあります。心に太陽を、片手にラケットを——渡辺君は一つの例です。

渡辺君は、会社では薬品配合の仕事に従事し、時間を見出しては、みずから〝なんでもやってやろう〟とスポーツに取り組む青年として成長しました。渡辺君に負けず、追いつき追い越す人たちが続出することを、心から希望しております。

住所を記しておきますので、激励してあげて下されば幸いです。

〒544　大阪市生野区舎利寺3の11の1　渡辺健次（電06・716・4171）

カアルトン ニュートーナメント は水鳥？

ナイロンを感じさせないナイロン。

新開発された、カアルトン〝ニュートーナメント〟シャトルは、ナイロンと云うよりも英国製高級水鳥シャトルに最も類似した性能を備えた、新しいシャトルです。



ニュートーナメントの特徴

●打球音が変った●ラケットから離れる感じが変った●ネットでのターンノーバ（回転）が変った●スピン●シャトルに対する視覚度（よく見える）がよくなった●飛翔のときの一貫した安定性が増加された。

メトロレジャー株式会社

東京都千代田区外神田5-6-4 TEL. 833-3661（代）

とはなにか



“男子バレー事件”に考える

問われた「品位とはなにか」

昨年十一月から年末にかけてミュンヘン五輪の男子バレー全日本チーム〝アマ違反容疑〟事件が世間を騒がせた。列挙された〝事例〟の前に、日本バレーボール協会は、ついに会長を残して総辞職、執行部を刷新、金メダルに輝いた英雄・松平監督と、バレーブームの立て役者・前田副会長も、一転、栄光の座から姿を消さなければならなかった。この問題の〝審判〟に当たった日本体協・アマ委員会（鈴木良徳委員長）は、結局「容疑はあるが執行猶予」との判定を下した。アマチュアリズムとはなにか、同じスポーツマンとして私達がこの機会に考えてみるのも、ムダではない。

男子バレー〝アマ違反容疑〟の経過は、新聞等でくわしく報じられたから、読者各位もご承知のことだろう。だから、ここでは、まず、要点だけを説明しておこう。

チームと各選手たちが、アマ違反を犯したのではないか、と問題になった事実は次の6件あった。

①雑誌「少年マガジン」に監督、選手のサイン入り写真、手形が出た

②木村選手の結婚式がテレビで流された

③結婚式を終えた森田選手が〝スター千一夜〟に出演した

④テレビのインタビュー番組に出演した大古選手の画面の下に、番組スポンサーである運動具店のテロップが流された

⑤新刊の「バレーニッポン」に島岡選手のサイン入りブロマイドが付録としてつけられた

⑥週刊誌「女性自身」に、芸者とダンスしたり、酒を汲みかわしたりしているグラビア写真が掲載された

このうち、最初の5件については、調査の結果、選手側に悪意がなく、しいていえば「雑誌やテレビ側との連絡不十分、うかつだったという意味での過失があっただけ」で、一応は無罪と判断された。

しかし、6番目の〝芸者とダンス〟だけは「アマスポーツマンの品位をけがすもの」として日本体協のアマチュア委員会も最後まで、その判断を譲らなかった。ただ、その場合は日本体協およびバレー協会アマ規定第4条6項で選手の登録取り消し処分を行なうほかない。

一方、一連のグラビア写真が〝撮影された〟経過には、情状酌量の余地がある——ということで「有罪だが処罰しない」むねの奇妙な〝判決〟が下ったのである。

では、芸者とダンスするのはいけないことなのか、品位とはなにかが、当然、問題になるが順序としてその前に、アマ規定とはなにかを、まず知らなければならないだろう。

規定対象の〝アマ〟は登録者

アマチュア規定は、アマチュア・スポーツマンが、みずから守るべき数々の事項をまとめたものである。

しかし、規定の対象となるのは、アマ競技団体（たとえば日本バドミントン協会のように、その競技とプレーヤーを全国的に統括する組織）に登録されたものだけである。なぜなら、登

アマチュアリズム

名声を利用しない——が根本原理

問題は条文より選手のモラル

録していない人は規制することができないからだ。

その意味で、アマ規定はあくまでも、競技団体の会員という〝仲間うち〟の決めごと。登録ということを基準に考えると、登録するなら規定を守って下さいよ、というわけで、一種の登録規定ともいえる。

では、一般にスポーツマンはどんな理由があって、会員登録をするのだろうか。その競技団体がやる事業の恩恵にあずかるためだが、その中で一番大きなしかも、単純な理由は、その競技団体が主催、主管、派遣する大会への出場資格を持つためといっていいだろう。

（事実、日本バドミントン協会の登録者でなければ、全日本総合や国体に出られないし、ユ杯ト杯の代表になることはもちろん、海外遠征にも行けない。海外で公式試合に出るためには、日本協会のメンバーであるという〝証明〟が必要である）

つまり、参加資格を得るためということもできる。現にIOC（国際オリンピック委員会）では、アマ規定という言葉は使わずエリジビリティ・ルール即ち参加者資格と表現している。

ふつう、アマはプロ（プロフェッショナル）の対語として考えられ、それを職業（生計の手段）としないもの、の意味である。しかし、スポーツの世界でいうアマチュアは、単なる広い意味での〝しろうと〟ではない。

だから、競技団体に登録しないでプレーを楽しんでいる多くの人々（学校や地域のクラブ、職場などで）は、プロではないが、アマともいえないという、まことに奇妙な話になる。このへんが芸術、芸能などの世界と違う点だ。そしてこれらの〝アマ〟に規定などはない。

さて、ではアマ規定には、どんなことが書いてあるか。日本体協には、全国を統括する37の競技団体が加盟しており、みなそれぞれにまちまちの規定を持っている（注、ボウリングなど二、三の体協未加盟の競技団体で、アマ規定を持っているものもある）。

しかし、基本的な点では、みな一致している。それは

「アマチュアとは——自分のためにスポーツを楽しみ①選手としての名声を営利的、政治的宣伝的に利用しない②スポーツをすることによって金銭との結びつきを持たない」（読売新聞広瀬記者「日本バレーボール協会機関誌・バレーボール73年2月号」）ことである。

なぜかというと、この2点がプロと、プロでないものを区別する基準になるからだ。「お金をもらわなければ（なにかやっても）かまわない」とする意見の人もいるが、それでも、スポーツの独立性、純粋性を犯すおそれがある行為はよくない、ということで、①の考え方があるわけだ。

最初に述べた男子バレーの容疑事実のうち、①～⑤はすべて「選手としての名声を営利的、政治的、宣伝的に利用しない」という根本原則にひっかかると思われたのである。

では、次に〝品位〟というのはなんだろうか。これは、幸か不幸か？　日本バドミントン協会のアマチュア規定の中には、品位に関する項目はない。それは品位というのは、あまりにもばくぜんとした言葉で、なにを基準に品位があるとか、ないとか、決めるのはむずかしいからである。

即ち、かりにもし、ある選手の行動が「品位がない」と判断された場合、それは「会員として、協会の名誉をいちじるしく傷つけた」という意味であり、そうならば、それはアマ規定というよりも、むしろ、人間とし

注目のマトとなった〝品位〟の条項

日本体育協会アマ規定

第4条　本会加盟の競技団体は次の者を競技者として登録できない。また、すでに登録した競技者が、次に該当した場合、その登録を取り消さなければならない。

(6)　その他、競技者としての品位または名誉を傷つけた者。

日本バレーボール協会アマ規定

第4条　本会加盟登録団体は次の者を競技者として登録できない。また、すでに登録した競技者が、次に該当した場合、その登録を取り消さなければならない。

(6)　その他、競技者としての品位または名誉を傷つけた者。

てのモラルの問題ではないか。規定にうたうことはない、別の問題として処理する方がいいと考えるからである。

では、具体例として、男子バレーのチームが、宴会で芸者のお酌を受けたり、一緒にダンスしたことは品位をけがすことだろうか。

「相手が芸者だから品位をけがした、というのなら、芸者をバカにしたことになる」「子供じゃないのだから、宴会でハメをはずして、なにが悪い。法律に触れることをしたわけじゃない」。こんな反論が、関係者の間から出た。

これに対する日本体協・鈴木アマ委員長の考えは、次のようなものだった。「その通りだ。しかし、その写真をとられ、雑誌に公開されたことがよくない。ここをよく考えてほしい」

期待したいマスコミの良識

ここで、問題を少し前に戻そう。別記「日本バドミントン協会アマ規定（抜萃）」を読んでもわかるように、この規定は、すべて選手に対し「…しなければならない」「してはならない」という書き方になっている。

それは当り前だが、それなら確かに、日本を代表する第一線スポーツマンといえども、サラリーマンであり、学生であり社会人である。私生活を持っている。しかし、お酒によっぱらった写真を公開（広く一般の人人の目にふれるようにする）されたら、それを見た人々が「この写真は品位がある」とは、決していわないだろう。

「品位がない」と断定できないまでも、逆に「品位がある」といえないことも間違いない。ましてや、同じスポーツに志している若いプレーヤーたちが、〝尊敬のマト〟であり〝あこがれの対象〟だった選手の、こうした写真を見たら大なり小なり、がっかりするだろう。

バドミントンの世界で同じようなことが起こったら、皆さんは、どう感じるだろうか。

「選手が名声を利用する（させる）つもりがなくとも、知らないうちに利用されてしまったらどうするのか」との疑問がわいてくる。

実は男子バレーの例の①～⑤の中にも「やられちゃった」ものがふくまれていた。かりに、このために選手や協会が迷惑を受けたら、アマ規定では相手を処罰できない。訴訟にでも持ち込むほかはない。

〝芸者とダンス〟の時は、チーム解散の打ち上げ宴会の席だった。それまで何年か取材に当っていた週刊誌記者も同行した。しかし「その記者達に対してもきょうは無礼講で、といってあるので、まさか、写真をとっても、雑誌に出すとは思わなかった」と松平監督は述べている。

はっきりいえば、あの場合、載せないのがマスコミの良識であろう。が、週刊誌側は「社会的に見て、あの写真が品位を下げるとは思わない。解散式は報道する価値があるし、報道は自由だと思う」（読売新聞から）と反論した。断わられたのに、無理やり取材したのではない、というのだ。

選手も社会人としての自覚を

しかし、取材を拒否しなければ、なんでもかんでも記事にし写真にするということであればスポーツマンも、うっかりしていられない。報道の自由はわかるが、その中には、社会人としてのモラルの良識がふくまれているはず。それを期待するのは無理なのだろうか。

それはともかく、スポーツマンは、まず、みずからが戒心することが大切だろう。

すでに述べたように、アマ規定は〝仲間うちの取り決め〟にすぎない。もし、違反したとしても、天下国家の法律を犯した罪人というわけではない。モラルの問題であり、そのモラルこそが〝憲法よりも重い〟としても、である。

けれども、そのような〝アマ違反〟が、しばしば新聞等で、反社会的な事件と同じようにデカデカ書き立てられるのは、一体なぜだろうか。

それは、違反容疑の主人公が、一流スポーツマンとして有名な（そうでなければ商業宣伝や広告に利用されるわけがないし、プライバシーを報道する値打ちもない）人であり即ち社会的に関心を集め、ある意味で尊敬され、期待される存在だからである。

それを選手自身が知っておいてほしい。一流といわず、すべてのスポーツマンは考えてほしい。もちろん聖人君子になれ、とはいわない。が、後に続く人人への影響を考えて行動したいものだ。

あるプロ選手は「年少ファンのイメージをこわす」といって、決して酒やタバコをのんでいる場面の写真をとらせないそうだ。これは偽善であろうか。さてあなたは、どう考える？

日本バドミントン協会アマ規定（抜萃）

第二章　登録競技者

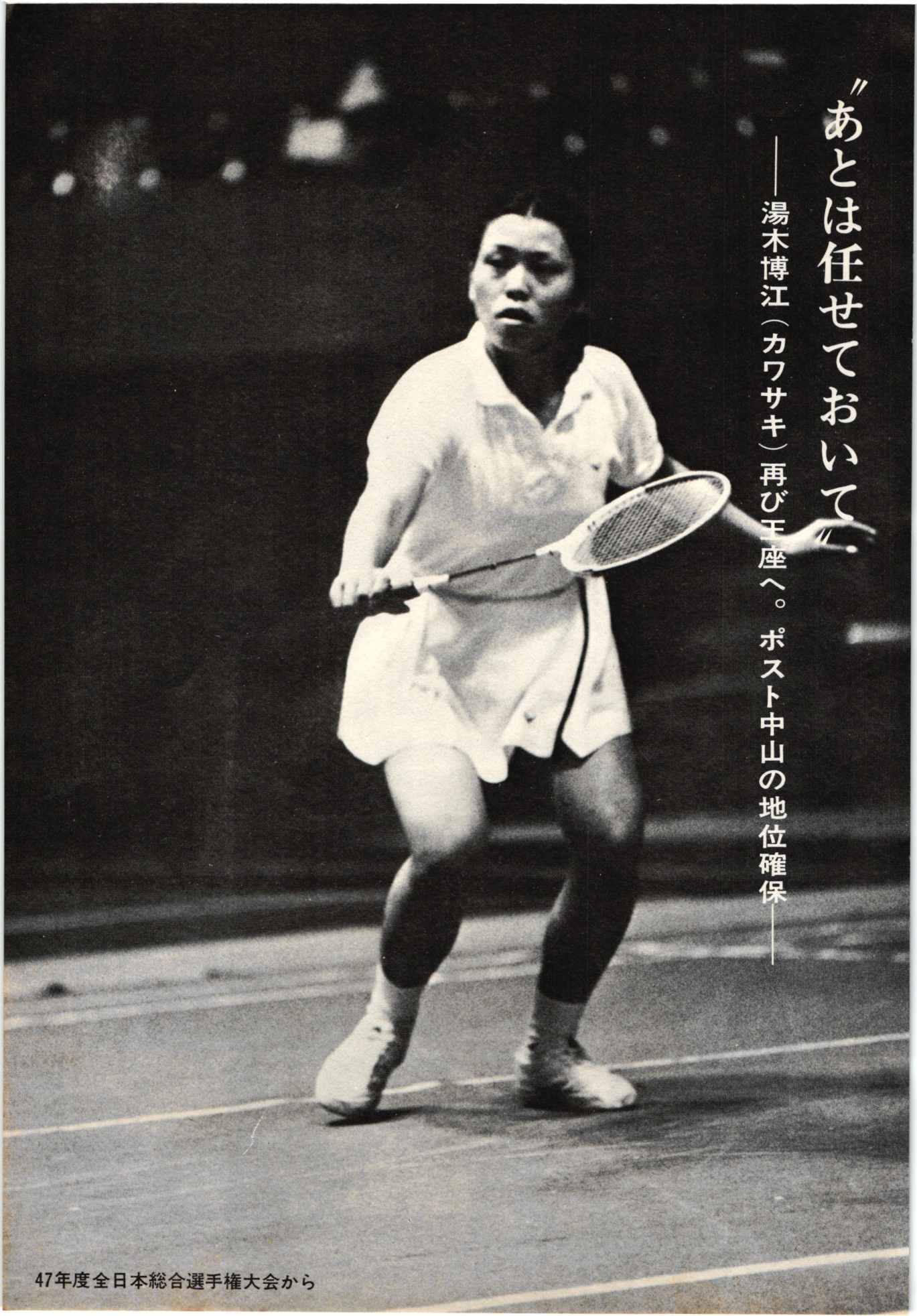
第3条　本会の登録競技者はバドミントン競技で得た名声を商業宣伝のために使ってはならない。

第4条　本会の登録競技者は参加した競技会で、賞状、トロフィ、カップ、タテ等以外の賞または副賞、記念品または、これに準ずるもの以外の金品を受けてはならない。

また、上記の賞、副賞、記念品等を金銭に変えてはならない

第5条　本会の登録競技者は放送、座談会その他の行事等に出演を求められた場合はあらかじめ本会に届け出て、承認を受けなければならない。

第7条　本会の登録競技者は競技のために直接使用する被服もしくは用具等に広告を記載したものを使用してはならない。



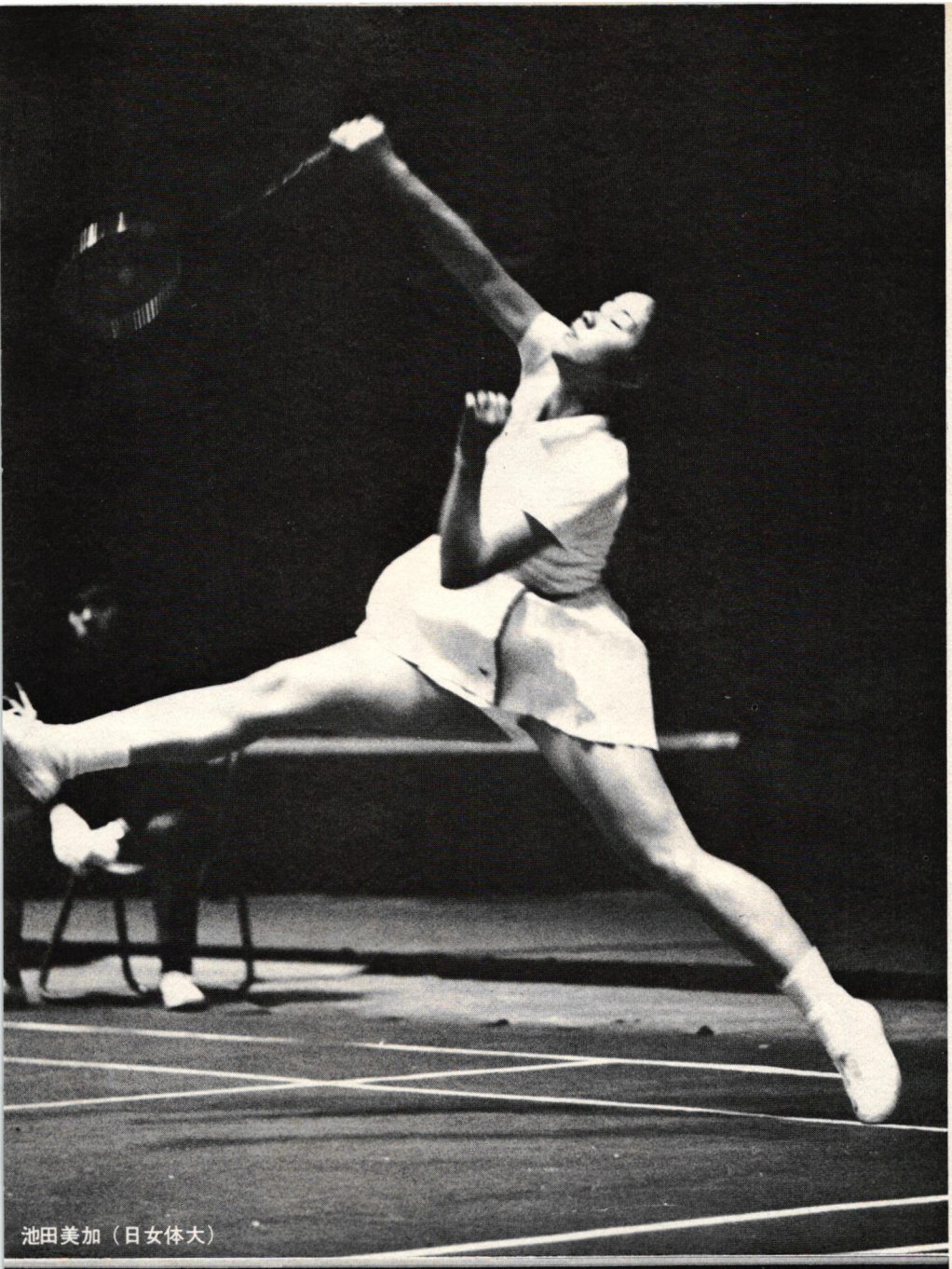
"あとは任せておいて"

——湯木博江（カワサキ）再び王座へ。ポスト中山の地位確保——

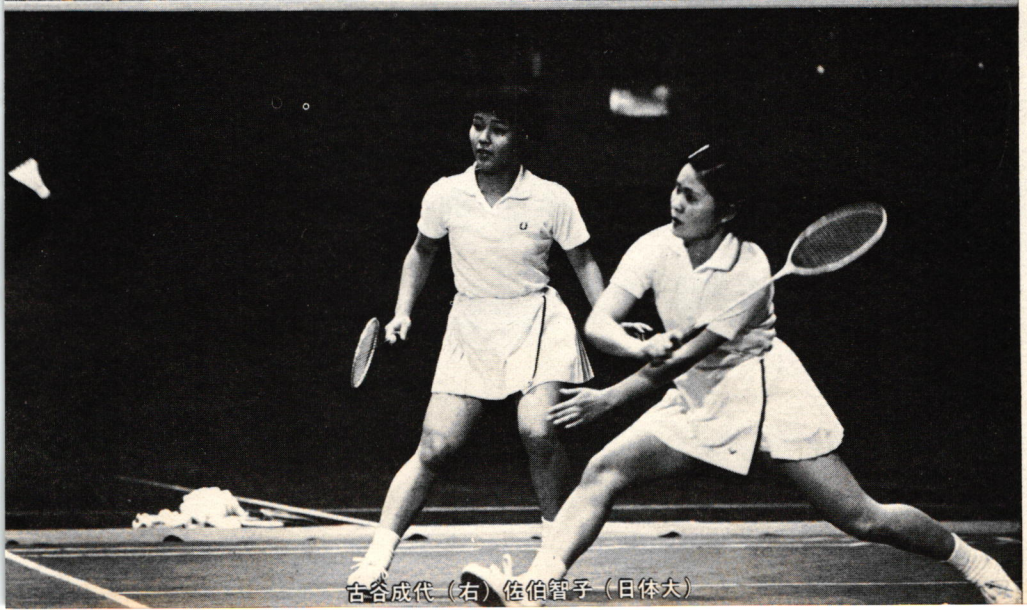
47年度全日本総合選手権大会から

次は私たちの番よ

女子は新鋭の花ざかり



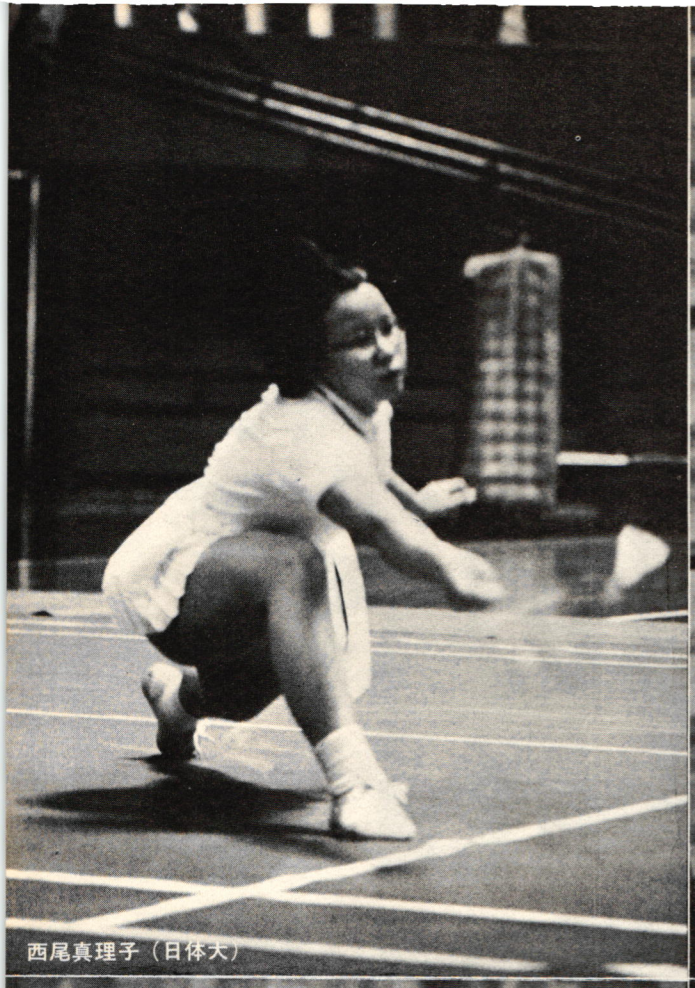
池田美加（日女体大）



古谷成代（右）佐伯智子（日体大）

湯木が二度目の〝女王〟となり、世界ナンバーワン中山紀子さんの後継者として、浮かび上ってきた。次期ユ杯はあと二年半先、軽々しく断定はできないが、本人に精神的な自覚が出てきたことがうれしい。

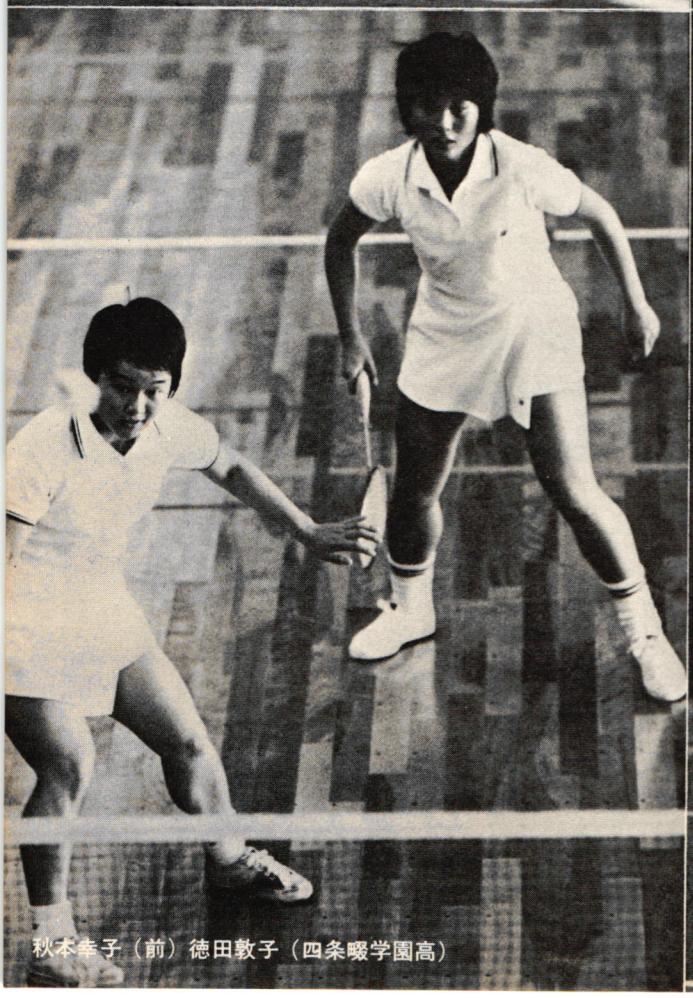
だが、これを追う数々のホープを発見できたことの方が、実は日本の将来にとっての大きな収穫だったかもしれない。若いということは未熟であることの代名詞でもあるが、ひたすら未来をめざすエネルギーは、いつ見ても楽しい。「一歩一歩、着実に伸びてほしい」と関係者の顔もほころんでいた。二年半は新人にとって十分な時間だ。



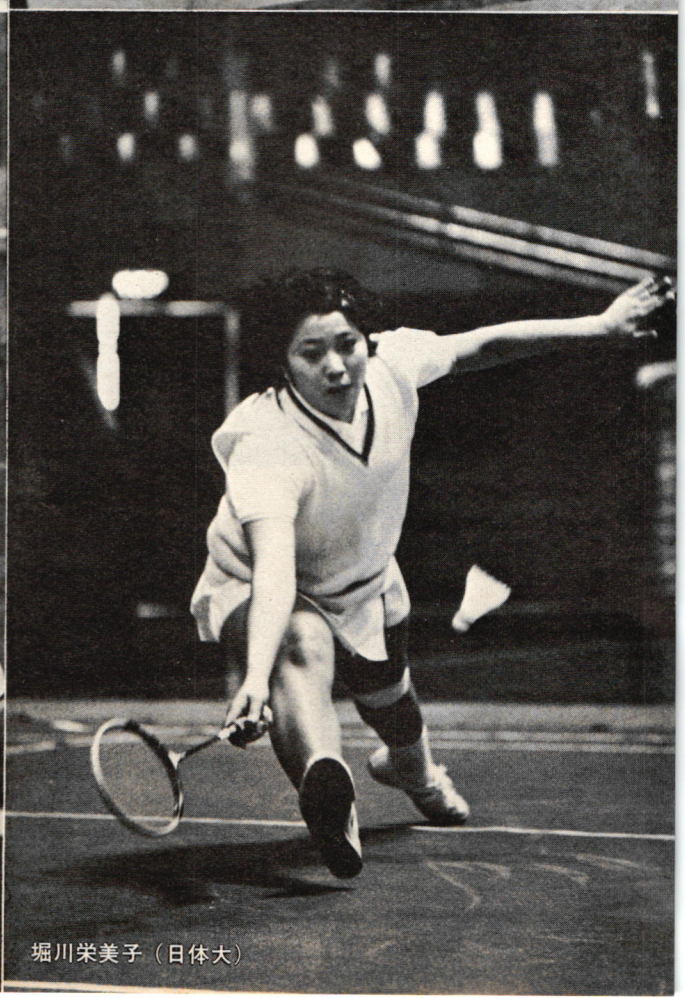
西尾真理子（日体大）



秋本八代美（日体大）

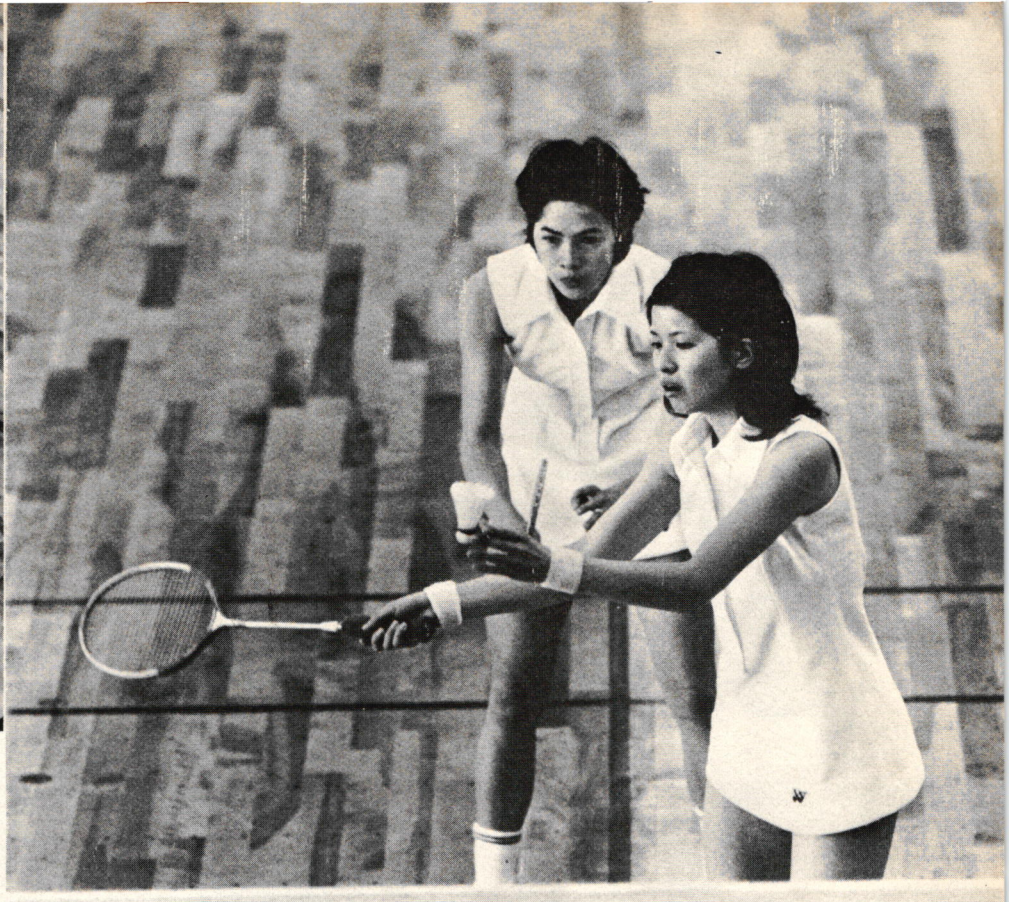


秋本幸子（前）徳田敦子（四条畷学園高）



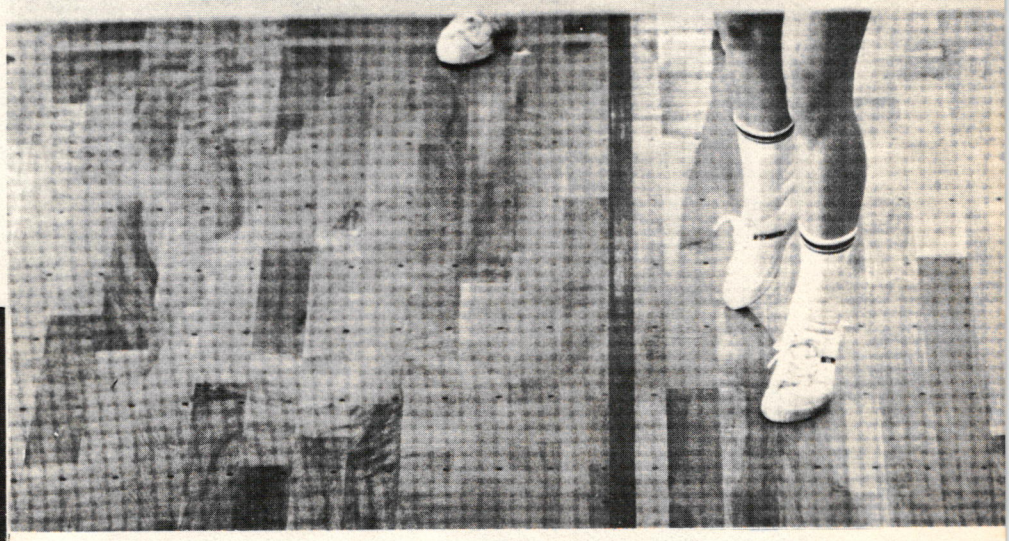
堀川栄美子（日体大）





また復活

ネヤマ）も





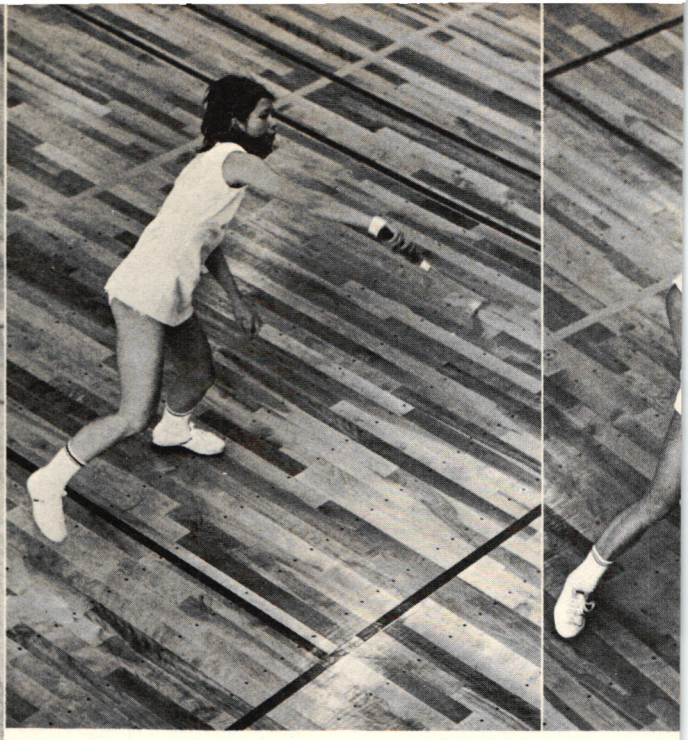
ユ杯後の半年間は相沢・竹中コンビにとって、苦しみの時間の連続だったようだ。

腰を痛めた相沢が夏の暑い盛りにほとんど身動きできず、寝たっきり。パートナーを欠いた竹中も国体で湯木と組んで東京に優勝をもたらしはしたが、積年の疲れから、過去一年を棒に振ったヒザの故障が再び痛み出し、練習不足。

全日本に姿を現わしたこの名コンビは、体調不良のまま戦わざるを得ず「これが十ヵ月前には世界タイトルをとったペアか」と思われるような動きの悪さばかりが目についた。スタンドの片スミで観戦した、かつての恩師は「完全に進歩が止っている。なにをしているのか」と厳しかった。

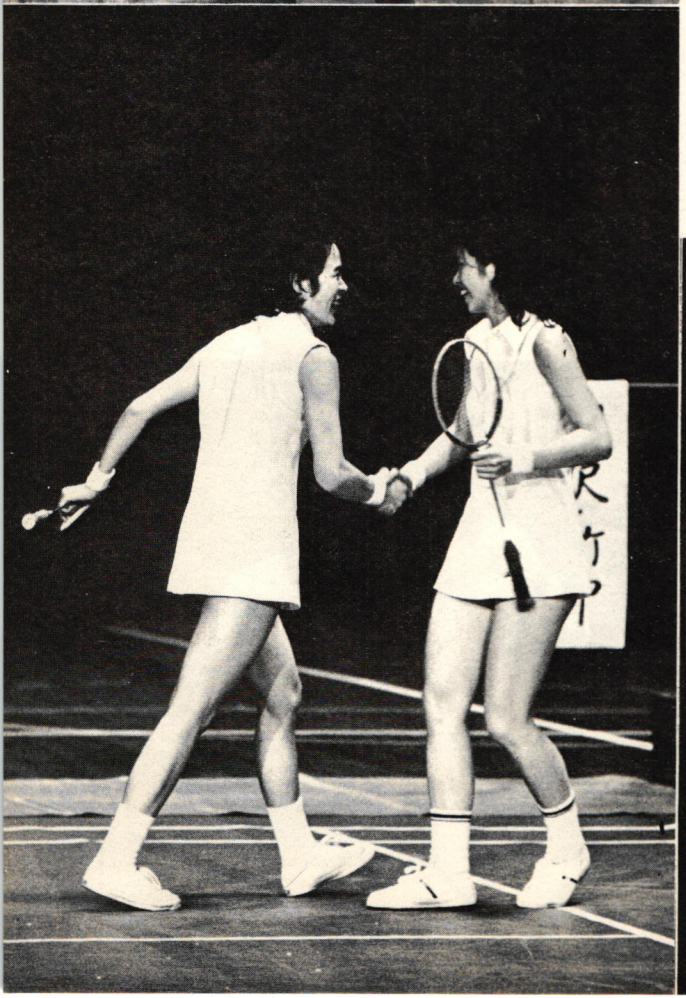
よろめきながらの優勝。それだけに王座返り咲きが実現した瞬間の二人は、初優勝のとき以上にうれしそうだった。〝復活〟の足がかりをつかんだコンビは、これから自信をもって、また将来へはばたくことだろう。

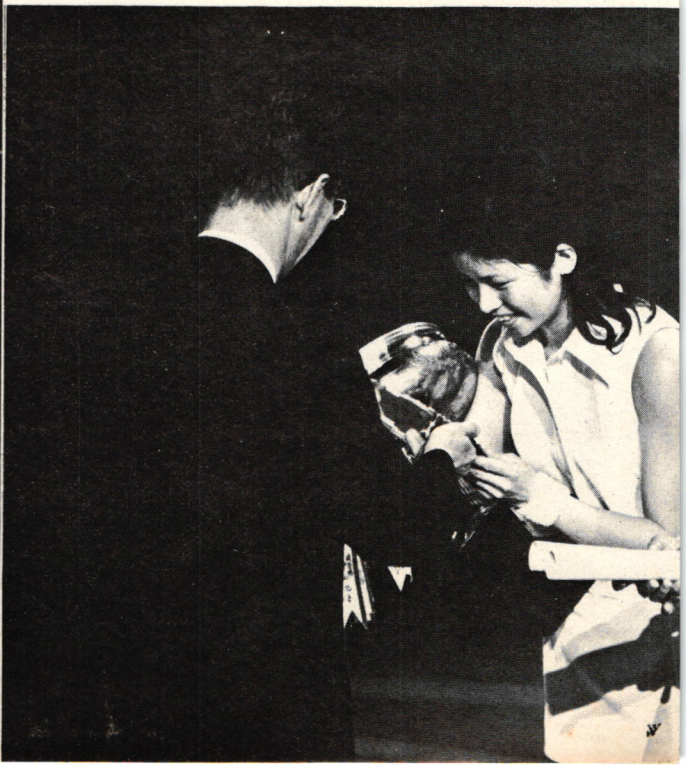


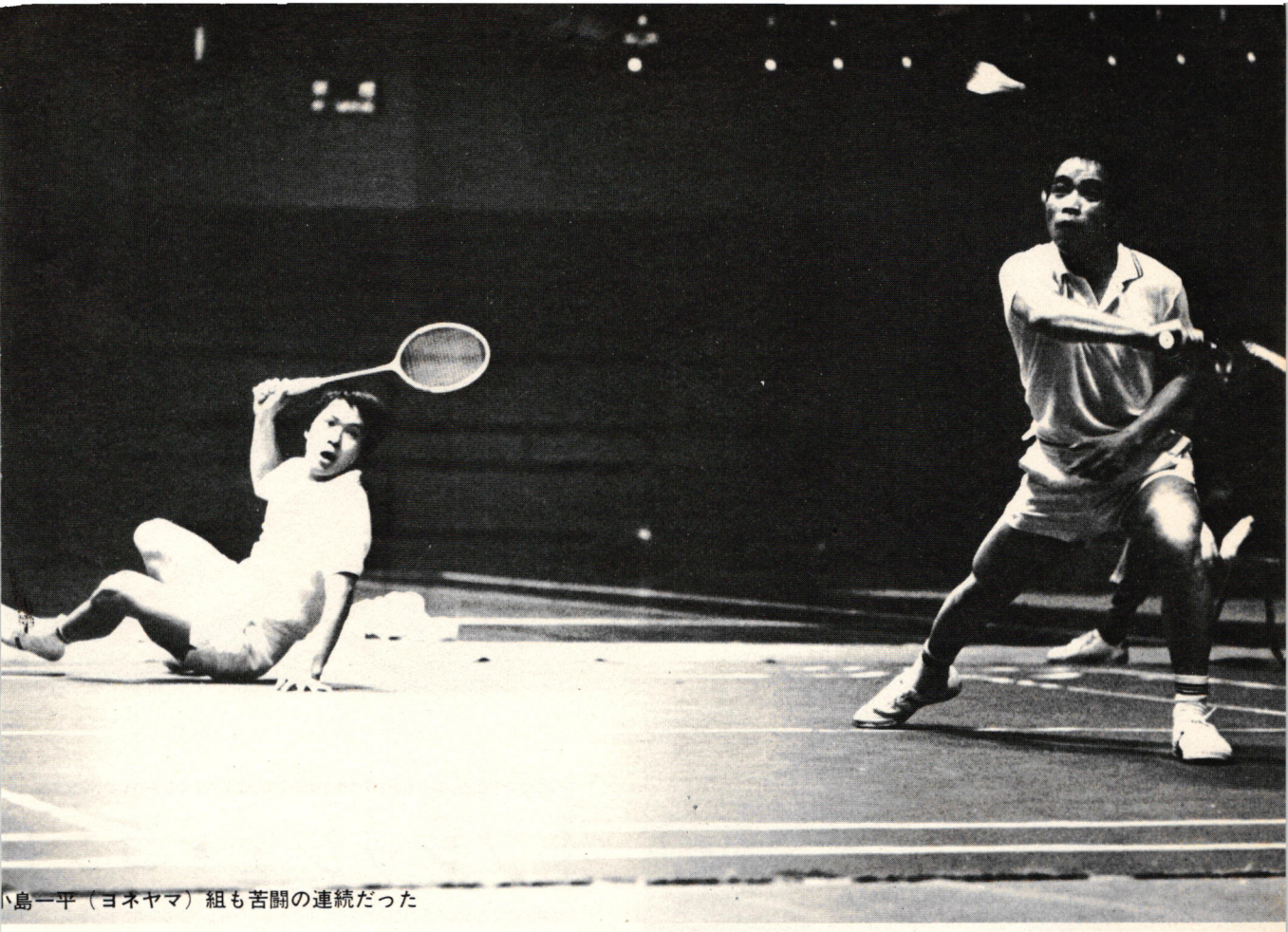


フレッシュ・コンビ

相沢マチ子・竹中悦子組（三
4度目の栄冠に輝く



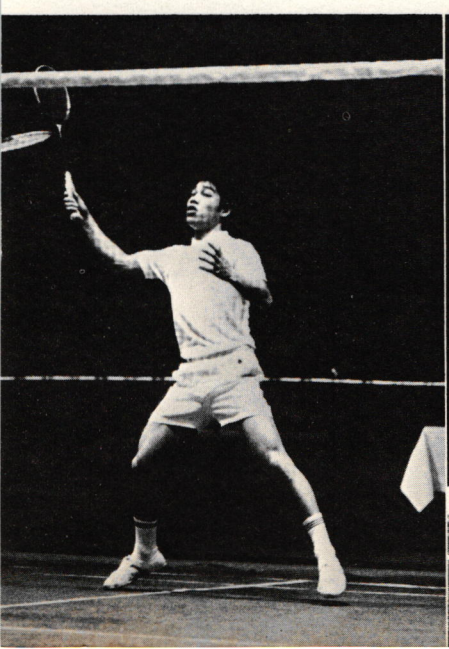




小島一平（ヨネヤマ）組も苦闘の連続だった

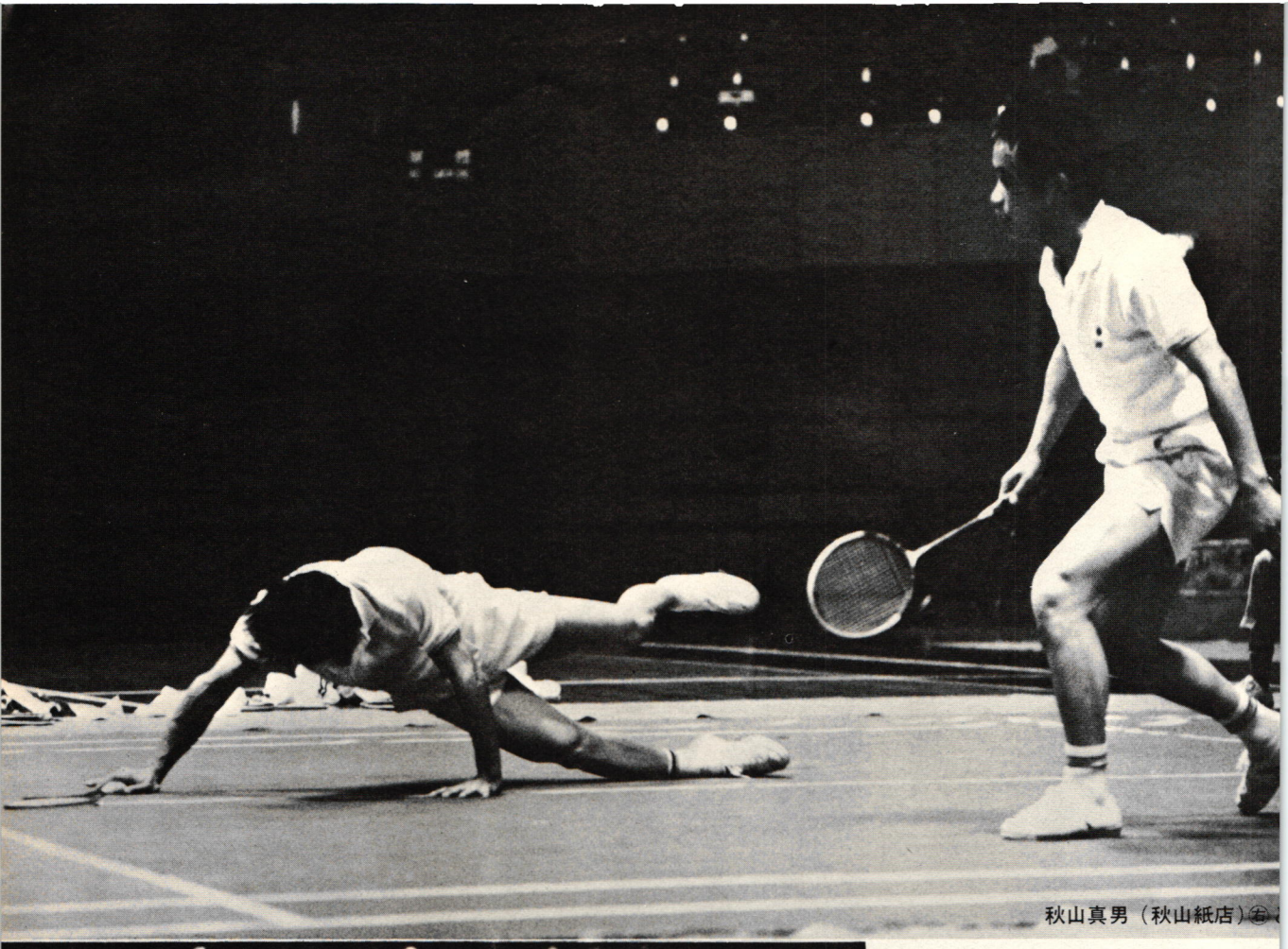
ったベテラン組と，その挑戦者たち

血と汗の熱戦を展開した男子ダブルスの強豪



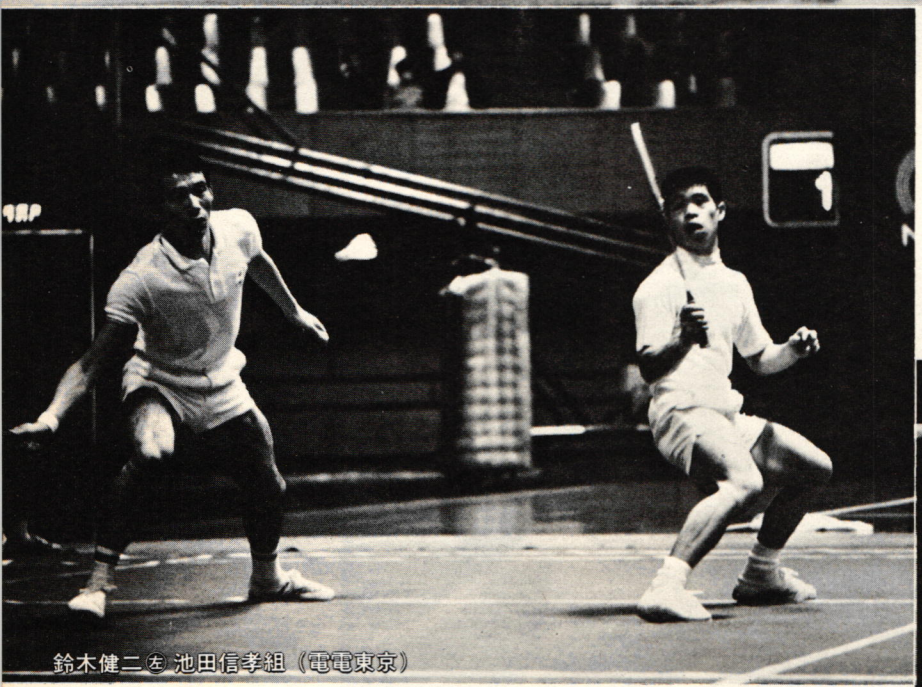


今泉　勉㊧河村博之組（高岡市役所）

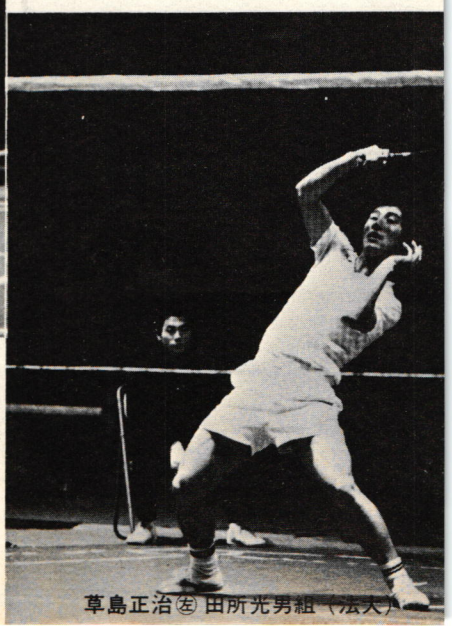


秋山真男（秋山紙店）㊧

“城”を守



鈴木健二㊧ 池田信孝組（電電東京）

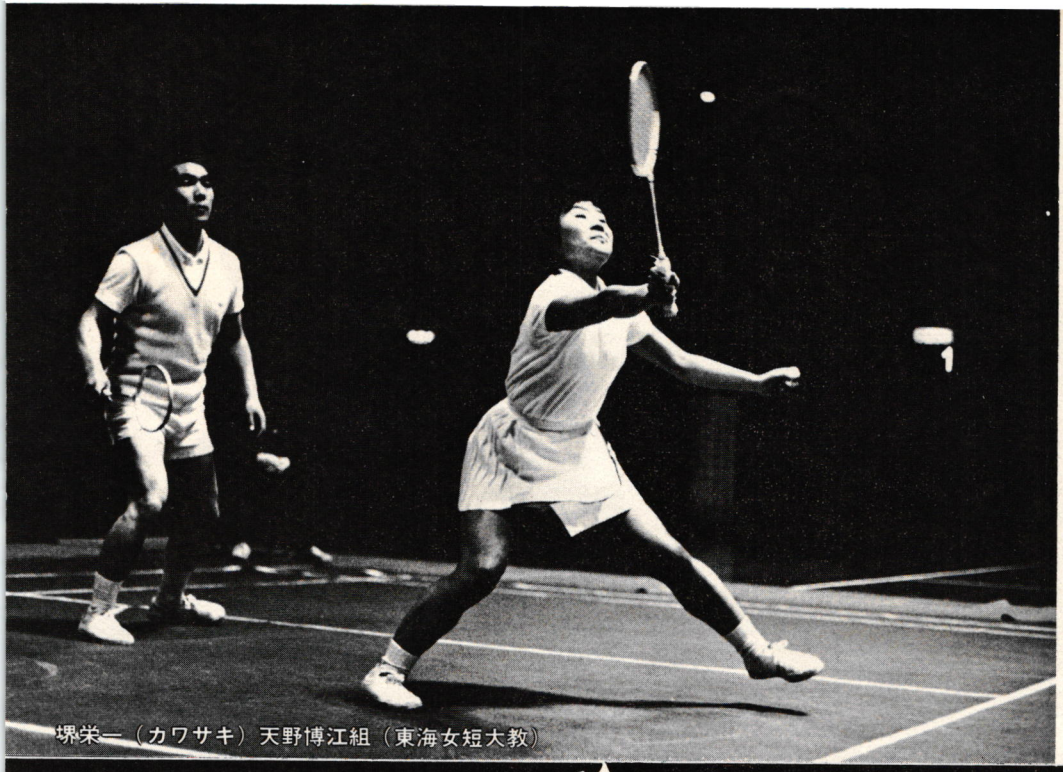


草島正治㊧ 田所光男組（法大）

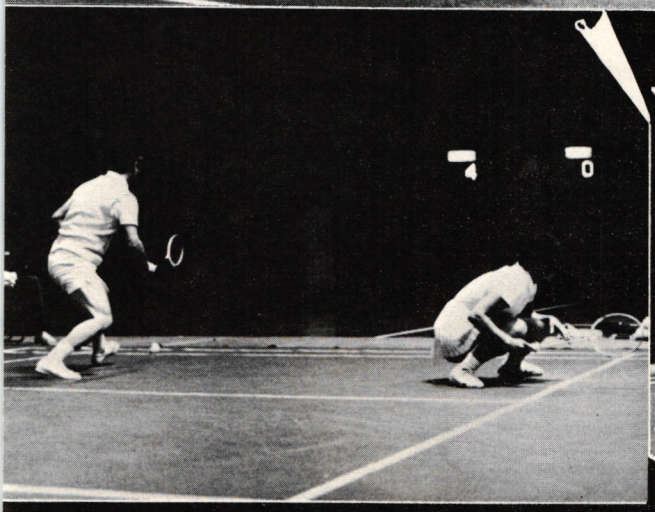
ダブルスの戦いは，なかなかむずかしい。日本は学校，企業がスポーツ活動の母体であり，いいペアを固定して長期に組むことが困難という，特殊な事情もある。秋山・小島のペアは大学（中大）以来，時間的には長いつきあいだろうが，現在は職場も別々，実質的には即席に近い。だが，プレーの深さを持っている選手は，こんな時でも力を発揮する。男子のベスト4は予想通りの顔ぶれで，これら強豪の戦いはスピードに富み見事なものだった。秋山組も楽勝ではなかったが，挑戦者にいま一つの追い上げもほしかった。

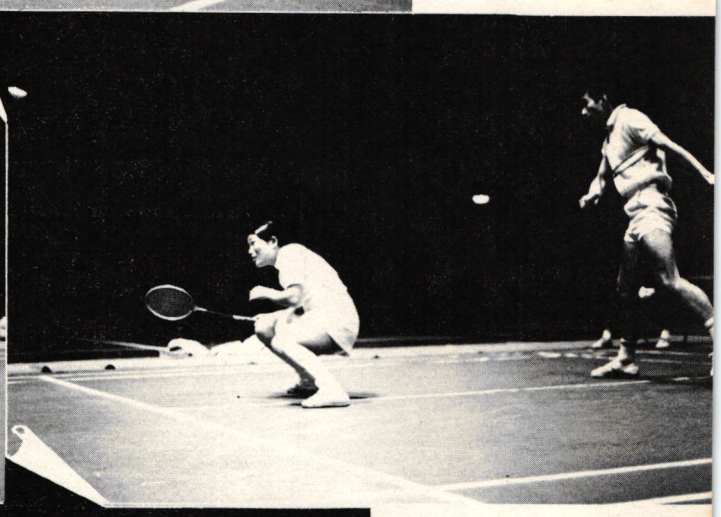
花の混合ダブルス

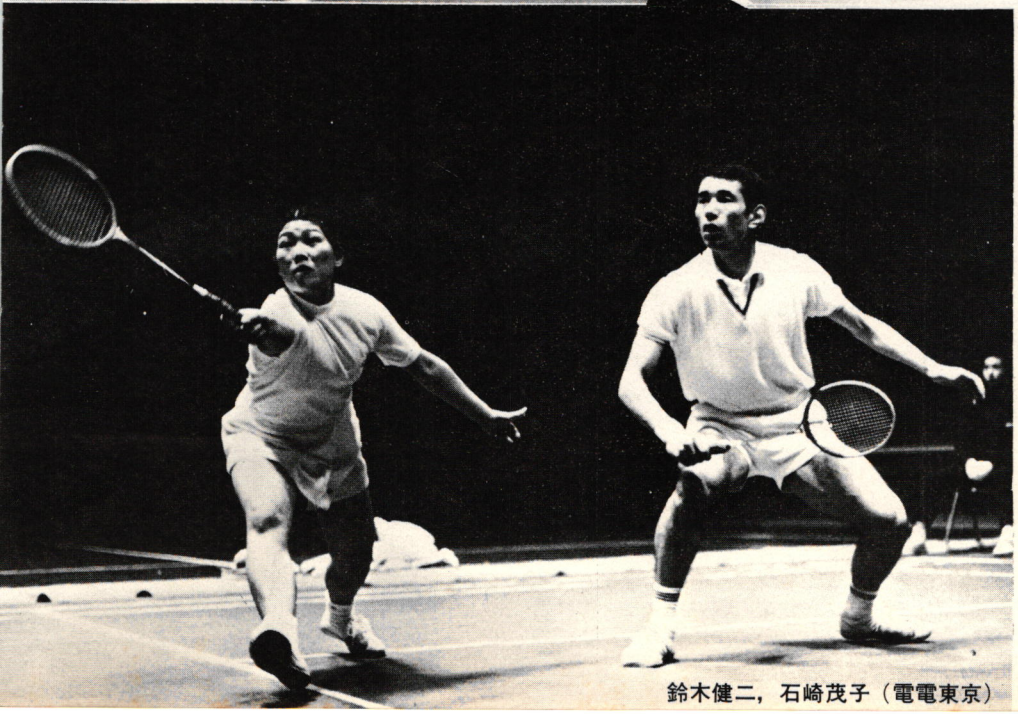
堺・天野組が3連勝



堺栄一（カワサキ）天野博江組（東海女短大教）





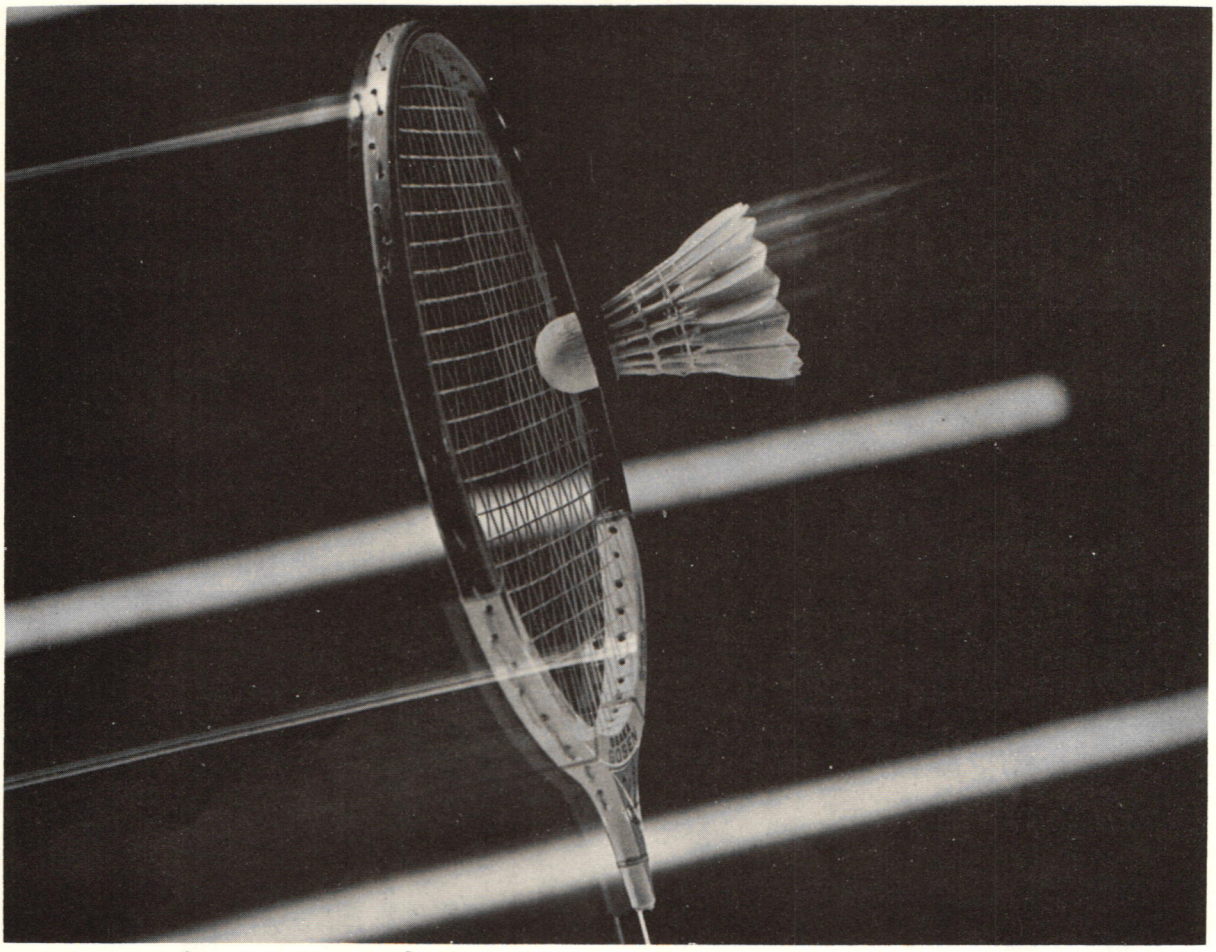


鈴木健二，石崎茂子（電電東京）

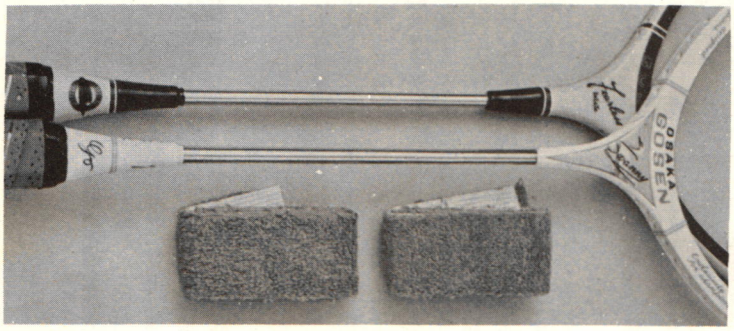
混合ダブルスの出場者が年々少くなっていくのはさびしい。混合は決して〝添えもの〟ではなく、一つの立派な種目。これを軽視するような考えがもしあったら大変だ。女子がスピードあるシャトルに慣れ、プレー上大いにプラスという点からも「この種目だけ、別の大会をやるぐらい盛んにすべきだ」との声もある。職場、学校というタテ割り組織を考えると、なかなか相手を見つけることがむずかしい事情もわかるが、一つ学生あたりで思い切って採用したらどうか。

《新発売》

Swannv



この確かなバイブレーション。
それはスワニー。



特殊合板の力強いフレームに、従来のものより長いステンレス・シャフトの強靭性が強力なバイブレーションを生み、重さも122g以下と今までより軽くなり、それがスピードとパワーの素晴しいバランスを構成し、ふりもシャープな一級品ラケットをつくりました。

No.β スワニー〈フレーム・カバー付〉 ¥3,800

☆お買い上げになりますとタオルグリップがついています。

大阪合繊株式会社
本　社・大阪市東区豊後町4 ☎(06)942-5816 代
東京営業所・東京都台東区鳥越1-26-1 ☎(03)862-6576 代

インカレ（全日本学生選手権大会）がピンチだという。技術的な問題については、前号で伊藤基記先生が指摘しているが、もう一つ、見のがしにできない点がある。参加校、参加者がごく一部のものに限られ、せっかくの機会が生かされていないことだ。学生の大会が盛んになりレベルが向上しなければ、日本の競技そのものが発展しない。現状を打開し、前進に結びつけるには、どうしたらいいか。競技力向上委の佐藤茂雄先生に問題提起してもらった。

インカレの在り方を考え直そう

部別制で参加者の増加を

学生界の盛衰は日本の盛衰に直結

「どうせ出たって」組を救うのが先決

特別寄稿

佐藤　茂雄

全国では約二百五十の大学がクラブまたは同好会を持っているといわれているが、いざ本番（全日本大学選手権）になると参加校は男女合わせて三十数チーム。全くお寒い限りである。

各地区の大会、リーグ戦なら多数の参加校がありながら、これでは、せっかくの大会も意義が半減である。かりにも全日本なのになぜ、こんなことになっているのか。

いまのうちに原因を突きとめ対策を立てなければいけない。学生の衰退は日本の衰退につながるからだ。さきごろのインカレで、各地区の委員長会議があり、依頼を受けて私は自分なりに、次のような提案をした。

これがすべて、とはいわないが、これまでの慣習にとらわれず、発想を転換させるだけで、いますぐにも実行できることもあるはずだ。そういう含みで、関係者の皆さんに、もう一度、考えてほしいと思う。

〈その対策〉

①部制の設定（団体、個人とも）

参加しても、どうせ勝ち目はない。だから…という学校、選手たちが多いはずである。そこで、こういうプレーヤー達が参加しやすいように、各地区で行なっているリーグ戦同様、一、二、部ぐらいまでのクラス分けをして、部制を敷く。自分の力に見合ったクラスへ参加できれば、楽しさも増し、励みもつくというものである。

日本協会の補助増額も必要

②1複2単制の設定（団体戦）

現行の1対抗が2複3単制では、最低四人～七人の選手が必要である。しかし、クラブ員の数は多くとも、れっきとした大会になった場合、一人か二人はいいが、三人目、四人目は心細く、初心者に近い、という学校が、特に国・公立には多い。

従って、一部については従来通りのシステムとし、二部以下は1複2単制にする。これなら二人～四人でよく、メンバーの少い学校、弱少チームでも参加が可能になる。2点先取後の残り試合はカットすれば時間も食わなくてすむ。

地方の選手たちはトップ級のプレーを見る機会がほとんどないが、たとえ二、三部に出場して早く負けても、機会を生かして観戦でき、一石二鳥だろう。二、三部の優勝チームは入れ替え戦など行なわなくとも、自動的に一段階上の部に入れる。

③表彰の改善

従来通り優勝杯、タテ等は一部優勝校、優勝者に渡し、二部以下は賞状と参加賞のみとする。賞状などの枚数が少々ふえたところで大した金額でもないし、バドミントン奨励のためには、どしどし渡してやればよい。

④開催地と運営＝大都市集中制

北海道から九州へ行くのは大変である。費用、体力の消耗等も大である。開催地は交通至便な京浜、中京、京阪神などの大都市に集中してもよいと思う。

開催地の学連は大変、特に運営のための資金集めは苦労する。各地区学連に広告代等の金額を事前に割り当てておき、なお、赤字が出た場合には参加校全体で穴埋めするなり参加料の値上げを行なうのも仕方がないだろう。開催地が赤字を埋めることはやめ、あくまでも受益者負担でまかなうようにする。

進行についても、かりに大阪でやった場合、一部は関西学連が、二部は中・四国学連が、三部は九州学連が中心になって、その任に当たるような方法を考えればよい。審判は現行の敗者審判とし、各部門別に責任を持てばよい。

⑤ランキングについて

ランキングは、団体・個人とも、あくまで一部を最上位とし二、三部等は、各々その部内でランクづけすればよい。

⑥日本協会の支援

日本バドミントン協会からのインカレに対する補助金が非常に少いと聞いている。社会人に続く次代のヒーローを期待するにしては、補助金が少いようだ。われわれがいつも、必ずといっていいほど口にするのは「大学生の君たちががんばらないといけないよ」である。一番大きな期待をかけながら援助が少いのは一つのムジュンである。日本協会自体の予算も少いが、毎毎、やむを得ないではダメである。登録料を若干値上げ（大学生のみ）してでももう少し増額できないものだろうか。

⑦選抜合宿の創設

日本協会は次代のために男女とも「ナショナル・チーム」制度を発足させているが、それとは別にインカレの上位八名～十名程度の選抜合宿を行なってはどうか。少くとも大学生に対し協会としての対策がないのはうなずけない。

指導委員会なり競技力向上委員会なりがこれに当たり「基礎体力」と「正しいバドミントン」そして「国際試合に通ずるバドミントン」をめざし、年に一、二回でよいから合宿を行うべきだろう。そしてナショナル・チームと学生陣との交流をはかり力があれば入れ替えを行なったりするのはどうだろうか。

〈その問題点〉

①試行錯誤で行こう

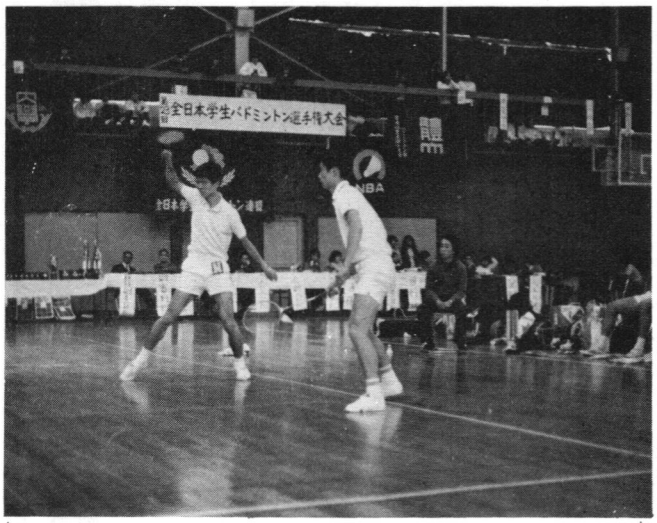
最初は一～三部への振り分け一つにしても〝ものさし〟をつくるのが困難かもしれないがはじめからなにごとも完全ではあり得ない。二、三年やっているうちに、自然と明確なラインが出て来るのではなかろうか。

前進のための失敗は覚悟の前思い切ってやるべきだろう。しりごみしたり、消極策ばかりでは、世界の強豪に伍していくのは至難であろう。

②地区間の意志疎通をはかれ

各地区学連の委員長会議をふやすべきである。インカレの組み合わせや大会の時にだけ会議を開いているのでは飛躍を望めない。その席では事務的な話以上のものが出にくいからだ。

費用を安くあげるためには、お寺に泊り込んで議論をするのもよし、スポーツセンターなどの施設を利用するのも一方法だろう。対話、討論の中からこそ自分たちの〝身になる〟ものが生まれてくる。



せっかくの全日本学生選手権も，一部の強い選手だけのものでは，意義が半減してしまう。みんなで考えなくては。

〝遺産を食う〟だけでは前進できない

外人選手を日本に招き、一人でも多くの人に、バドミントンの素晴らしさを認識してもらうPRも必要である。しかし、それには足元をしっかりと固めなければならない。

中国との交流も決まったし、かの国が広い国際舞台に進出してくるのも時間の問題だろう。日本の中核である学生界が、ただ現状に満足し、先輩のやってきたことを機械的に引き継いでいるのではこまる。

この拙文がインカレ振興のきっかけになればと、あえて問題提起をしたしだいである。

③開催時期の再検討も

大会の開催時期についても一考を要するのではなかろうか。運営資金の大半は会場使用料で占められている。インターハイ（全国高校大会）の直後ぐらいならば夏休みでもあり、学校の体育館が年間を通じて一番すいている時期である。

地方によっては、インターハイ直後に国体予選を行う所もあるが、最近は五～六月ごろにインターハイと国体の予選を兼ねて行う傾向が強くなっている。時期、施設の両面から検討し直してほしいものだ。

④大会ダイヤの過密化対策

現在でも長期間を要する大会が、部制の採用で参加校がふえ、さらに開催期間が延びることが考えられる。そこで、期間は同じでも会場を分散する、男女別別にすることも一方法。最終日だけ男女が同一会場に合流することもいいだろう。

また、東西対抗を切り離し、少し形を変えて別個にやることを考えてみてもよいだろう。要するに、チエを出し合えば、いい方法も見つかるはずだ。

× × ×

プレーヤーへの手紙・河村選手の巻(続)

河村・今泉組が全日本総合選手権大会で、二年連続ダブルス2位になりましたので、河村選手に対して注目の度合を深めたのは、私だけではないと思っております。以下は本人より聞きましたことがらです。

社会人になって二年間は、全くパートナーがいなくて苦労し練習は十条製紙に行って、大勢の選手にもまれたとのことです。なによりも練習相手が多く、ゲーム練習を欠かしたことがありません。地方にいても身近かにライバルがいたことが幸いでした。

皆さんが知りたいと思っている、練習方法を聞いてみましたら「ダブルス、シングルスとも、ほとんどゲーム練習をやっている」とのことでした。

基本練習を十分にやったうえでの、ゲーム練習主体と考えられますから、初心者など一応各ストロークができたら、ゲーム練習で興味をもたせる指導も、一つの方法と思います。

トレーニングとしては練習のある日に、近くの公園で走っています。この公園には坂が多い関係上、非常に起伏に富んでいるので、4キロほど走り込むと、平たんな道を6キロぐらい走った運動量に匹敵するそうです。

次にバック・ハンドが上手になった点について、説明をしてもらいました。高校時代にバックの練習をしていたとき、偶然にバック打ちのタイミングを覚えられたそうです。

普通の人と違う点は、バックのときに親指を動かし、親指のハラ(指紋のある部分)をハンドルにつけて打つので、うまくシャトルを飛ばせるそうです。

そのうえ、スマッシュ攻撃を受けそうになった際には、7対3の割合でバックに構えをするので、①バック側を固める②親指のハラの部分をハンドルに添える——その二点が、完全に近いレシーブができる原因だと感じました。

ダブルスのように、早いテンポで左右にシャトルが飛んできても、とっさに親指を操作して処理できるそうです。

文章に書いてしまいますと、親指の操作は簡単のようですが、恐らく親指が自由に動かせて、バックを打てるようになるには、相当の練習をしているはずです。皆さんもよいと思われることは、どしどし練習でとり入れて下さい。実行することが上達する早道です。

待ち構えているバックにシャトルが来てくれれば、少しぐらいの練習(親指の指紋の部分をハンドルに密着)でも、返せますが、フォアにスマッシュが来たときには、そううまくは返せません。

バックと思って親指を動かしたときに、フォアにシャトルが来た場合のことを、河村選手に尋ねてみました。親指を元に戻す練習をし、バックとフォアのレシーブを克服し、左右どちらにスマッシュをされても、自由自在にレシーブができる体勢をつくりあげていった、のだそうです。

ここでダブルスの初歩的と考えられがちな、ショート・ローサービスを見直しましょう。

オーバー・ハンドの規定が厳しくなりましたので、ショート・ロー・サービスは大変むずかしくなりました。ネット上縁すれすれに、しかも相手方のショート・サービス・ライン上に落下させるための練習を、怠ることはできません。

練習でやれても、いざゲームとなると相手の構えなどをみる結果、心が動揺してしまい、手首が堅くなって練習通りに、うまく打てないことがしばしばあります。

河村選手の場合はどのような心境で、試合中にショート・ロー・サービスを行なっているか興味が湧きましたので、サービスとレシーブについて語ってもらいました。

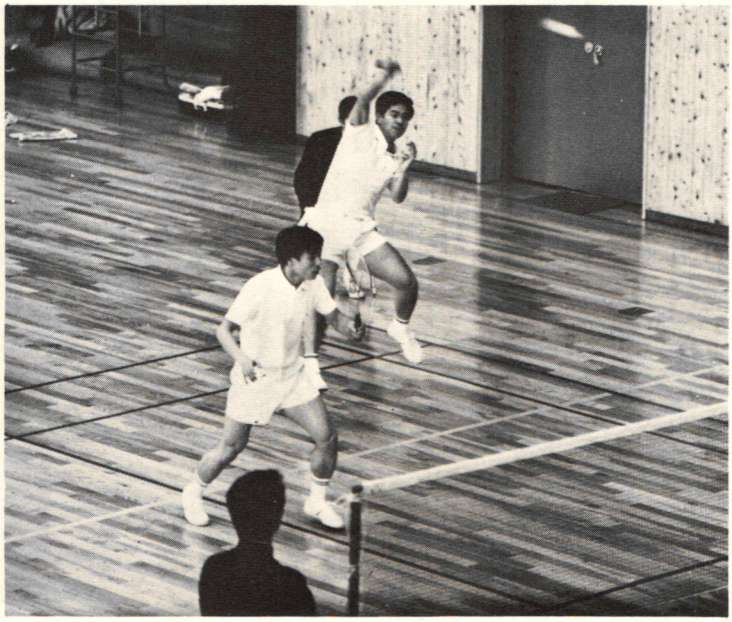
サービスは、ムードで出しているそうです。確かにダブルスには一つの波があります。海の波のりと同じように、サービスにしても、うまく波にのれますと、得点に結びつくだけに自分自身、さらにパートナーにも、サービスをうまく入れておけば勝てるのだと思わせるムードが必要です。

ついで、ショート・ロー・サービスのレシーブは一般論になってしまいますが、後方の両コーナー深く返球する練習をしておくことです。この後方返球にしても、フォア、バック両コーナーに高く返す方法と、比較的低く返す二通りがあります。シャート・ロー・サービスのレシーブ方法として、二通りの練習をつんでおくことは、きわめて有意義です。

親指のハラをハンドルにつける

バックの好レシーブに“秘密”あり

前日本教職員連盟常任理事　三須徳治



以上のサービスやサービス・レシーブ、さらに打ち合い中の抜群のレシーブ力を、パートナーの今泉選手が学びとり、二人のコンビネーションができ上ったと思われます。

河村選手は身体の柔軟性が不足がちなために、プレーでは無理な体勢からのスマッシュが余りありません。普通では、強打してネットにぶつけてしまうケースでも、ドリブン・クリアで返しております。

ドリブン・クリアでゆさぶられてしまう相手選手は、打ちにくい位置から、スマッシュを決めようとして、逆に失敗してしまうことがよくあります。

後方からのスマッシュや、クリア、ドロップは正確ですが、ネット附近のシャトル処理は、体が堅いために理想的なプレーとは、申せません。今後はネット附近の研究が欲しいところです。

最後に河村選手は、強くなれた原因を、次のように語ってくれました。

「試合に勝つためには、練習において、どんなに体調が悪くても、絶体、相手に負けてはいけないと、自分自身にいい聞かせながら練習をしてきた。」この精神が、実ったものと思われます。

（次号は山森明美選手の巻）

▲河村選手の落ち着いたさばきの後陣プレーは、今泉選手のネットプレーをよく助けた。

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー



ファスト印シャトル
コック 製造発売元

有限会社 ジャワ商会

山形市六日町７の28
電話 0263（22）3994(代表)

“恵まれすぎた環境”では伸びぬ

みずからのヤル気こそ前進の原動力

日本協会競技力向上委員長　伊藤基記

〝やらされる選手〟を返上しよう

日本のトップ級にある諸選手の育ちあがってきた過程を、くわしく検討してみると、指導者に恵まれたこともあるが、それ以前に本人がいわゆる〝やる気十分〟であったことを、間違いなく指摘できる。

だから私は、機会あるたびに「諸君を強くするのは、諸君自身である」と力説し続けてきた。

指導者や先生が、選手をあまりかまいすぎると（かまい方にもよるが）、一時的に上昇して、ある線まではゆき、有望視されることはあっても、いつか指導者が代わり、環境が変わるともとと〝借り物の意慾〟であったから、いつの間にか、しぼんでしまう。

だから、あまりなにもかも順調に伸びている状態は、長い目でみるとむしろ危いということになる。私は選手諸君の勝ったときの態度よりも、敗れたときの態度の方により関心を深くする。

本物の〝意慾〟〝やりとげる意志〟は他人からの借りものではないから、もともと自分の身についているものである。苦しいとき、みじめなときにそれは決してしぼむことがない。

たたかれたフグと同じように一層ふくらむのである。〝なにくそ〟〝今度こそ〟〝今に見ておれ〟と七転び八起きの斗志をかきたてる。だから失敗は成功のもとであり、敗戦は次の勝利への精神をかきたてる刺戟剤でしかない。

そうして、次の機会に訪れる当然の成功は〝次の勝利への自信〟というかたちで、さらに意志を強固にし、意慾をかきたてる。

従って、我々が次の時代に残すものは、末梢の技術ではなく、思う存分、歩き、走り、跳び、投げ、打つ、さがり、泳ぎ、滑る、ことができるような環境と、その中で、少々の挫折にめげず、むしろその意志を高揚してゆくような〝心〟でなければならない。

プレーヤー諸君にも、この気持はよくわかってもらいたいと思う。〝鍛えられた鉄ほど強い〟ことは、この世界でも立派に通用する。

むかし若い時代に「こんなに辛いことをなんで」と思ったことが、今になって考えてみると、それこそが、私をして今日あらしめる〝力〟であることをしみじみと感ずる……というのは、多くの先輩の言葉である。

おぜんだてのととのいすぎたところで、アグラをかくことになれると、少し粗末であったり、苦しかったりする環境に弱くなる。

今度、改訂する予定の拙著〝バドミントン上達法〟（不昧堂）の巻頭に、私は「勝つということは、相手に勝つことではなくて、自分に克つことである」という文句をいれることにきめている。

自分で自分の道を切り開らいてゆこうとするものでなければこちらが、どんなにやっきになっても、こちらのなにかを与えることは絶対にできないことを私はこの世界でいやというほど経験しているからだ。

「のどがかわいていなければ、馬にだって水をのませるけとはできないのだ」ということを、あらゆる場合に痛感させられてきたからだ。

(1) 練習会場に必ず五分以上前にきて、コートを掃除したり、ネットを張ったりして、指導者の現われるのを待つ

(2) 故障があったり、やむを得ない事情があったら、ハッキリと申し出て、指示を待つ

(3) 自分でトレーニングの計画を立て、継続的に実行している

(4) 挨拶をキチンとする

(5) コートや、こちらがあいていたら、すかさずお願いしますと申しこんでくる

(6) 練習のときでも試合のききでも、ちょっとやそっと、むずかしいフライトであっても、バレーの廻転レシーブのように突っ込んで、なんとか返球しようとする。決して立ん棒しない

(7) チームの中の仕事で、わずらわしいことがあっても、逃げたりしないで、進んでつらいことを引き受ける

(8) バドミントンをしていることを勉強ができない理由にしない

(9) パートナーが失敗したから負けたのだというような態度を絶対にとらない

(10) 他のプレーヤーの悪いところを指摘するよりも、よいところを見つけて、それにあやかろうとする……

というような選手を見つけると、私は一生懸命アドバイスするし、心から、その上達を祈ることにしている。

スタミナ、パワーの必要性再確認

驚くべき学生選手の非力さ

“まず体力”の原点に立つ練習を

日本協会競技力向上委員　佐藤茂雄

今回は「スマッシュ」について記す予定であったが、十月末からの東西対抗西軍監督として大学の試合を見て、あまりにも男女とも非力なのに驚き、急にテーマを変更することにした。

東西対抗及びインカレを見て一番驚いたのは、男女の一部少数人を除いては、ほとんどが「ねばり」と「力」に不足しているということであった。特に女子においては目を覆いたくなる状態であった。

技術的な面においても、一見上手に見えるが、それはあくまでも小手先だけのものであって奥行きがない。

スマッシュを打つにしても、球威がなく、スマッシュ・レシーブにしても、ネット前にしか返球出来ず、ハイクリアを数本連続して打たれれば、相手のバック・ラインへハネ返し、押し返すことも出来ず、あっぷあっぷの状態である。

力がないものだから、つい不本意ながら、小手先だけに頼る技巧に走り、しかも、上半身だけで動いている感じである。

もう一つ奥を考えて見ると「スタミナ」がないから足がついて行かない。足がついて行かないから、上半身だけの水泳スタイルになる、といった悪循環の繰り返しである。

バドミントンは「スタミナ」の勝負だとよくいわれるが、大学生であり、かつ、今後の日本を背負って行かねばならぬ選手達が、フーフーあえぎながらプレーしているさまは、なんともあわれである。

聞けば、練習といえば直ぐにコートへ入って、シャトルを使用するとのことであり、あまりの無自覚と無神経さに、ただただ驚くばかりであった。

実力が互角の場合は、必ずスタミナのある方が勝つ。小手先でもパワーがあれば狙った所へ配球も出来るが「スタミナ無し力無し」では、今後、本当に日バ界はどうなるのだろうか。

× × ×

バドミントンが本年度から、中学校の「特活」で採択され、本年度からは高校での「特活」に採択されることは、すでに決定している。そのため底辺なり競技人口は確かに増えるだろうが、増加するだけでは話にならない。

バドミントン人口の増加というよりも、むしろ「ハネつき」の人口が増加するにすぎない。真に競技人口がふえ、底辺が拡大されるのでなければ、素直には喜べない。

「富士山型」に選手層が厚くなるのが理想的であるが、現状は「ピラミッド型」であろう。学生界の頂点におるものが、これであってはならない。

さる九月下旬～十月上旬に行われた、ネパールでの国際試合に参加した選手の話を詳しく聞いたところによれば、中国の選手達は、男女とも日本に比して馬力が全然、違うとのことである。このような話を聞けば聞くほど、今後のバド界が不安でならない。

高校時代迄、激しく厳しい練習に耐えて来ておりながら、大学へ進学したとたん、極度に練習方法を変更してしまうというのは、どうも納得がゆかない。大学生は高校生、社会人に比して、一番時間的に余裕があるのだから、懸命に走り込んでスタミナをつけておくことだ。

パワーをつけることにしても種々、練習方法がある。多くの先生方が何度も何度も教えられているのだから、自分達に合うようにアレンジして、今一度、初心に帰ってもらいたい。

確かに日本はまたまたユ杯を防衛し欣快にたえないし、トマ杯にしても、対マレーシア戦では全くの互角であったが、その主力となった選手は、すべて社会人である。学生陣と社会人の格差はレキ然としている。

次回には、男女ともキャリアの豊富な選手が第一線から引退すると思われる。この穴を埋めるべきは大学生であろう。せっかく先輩達が苦労して築き上げた財産を、くずさないよう努力して欲しい。

すべてのスポーツの基礎はスタミナである。特にバドミントンは一番スタミナを必要とするわけだから「走れ、走れ!!」が重要である。走り込んでおれば当然のことながら根性もつちかわれ、「ねばり」も出て来るものである。加えて「パワー」をつけるために種々、工夫して見よう。

道具も機械も不要。金をかける必要もない。過去、多くの先生方が何度も述べられているが、一つ、ここらで「スタミナ」と「パワー」の必要性を確認の上、今後に対処して頂きたい。

初歩からの体力づくり

全身を強化、持久力もつく

―百万人のトレーニング入門―⑤

〝時間〟でわかる筋力のスピードアップ

サーキット・トレーニングのすべて

バドミントンに限らず、あらゆるスポーツの体力づくりとして、最も広く、効果のあるのがサーキット・トレーニングと呼ばれるものです。

サーキットは、サークル、サーカスなどと同じ語源で、循環する、巡回するという意味。ひとめぐりすると、また元へ戻ってくるというわけで、いくつかの運動を組み合わせて、一つのセットとし、これを配列に従って順々に行ない、一巡すれば、最初に戻って、もう一度、同じことを繰り返す…のです。

i サーキットの狙いと効果

ではサーキット・トレーニングの効果、ねらいはなにか。これについて述べてみましょう。

❶全身の筋力をまんべんなく強化する――どんな運動をやるかは後で述べますが、このセットされた運動種目は、肩、腕、背、腹、腰、足…と身体各部のトレーニングが、もれなくできるように工夫され、配列されています。

❷筋の持久力、呼吸循環機能の持久力を高める――持久力とはスタミナのことです。一セットの運動量、所要時間は、それほど大したことはありません。しかし、ふつうは一セットを三回、つまり三セット、休息なしにやります。それでスタミナが養われるわけです。

❸パワーがアップする――サーキットでは、一つの運動を、できる限り何回でもやる。という方法はとりません。あらかじめ決めた回数（個人の力により違う）をやる、つまり、量が一定しています。そこで、力がつき、コツをのみこんでくると、しだいに短い時間で、その運動を消化できるようになります。

スポーツでパワーというのは単なる力（押す、引く、あげる投げる…などの、それ自体の力）ではなく、スピードが加わったもの「力×スピード」を意味します。同じ運動を、より短時間でできるようになった、ということは、筋力のスピードが増した、ということです。

このため、回を重ねていけばトレーニングしたことの効果がはっきりと確かめられるわけです。これもサーキットの長所の一つです。

ii どんなふうにやるか。その要点

セットにして行なう運動の種目をまず決めます。そして一つ一つの運動について、一定の時間（1分間でよい）に最大何回できるかを測定します。その値の半分を、その人のノルマ（標準回数）とします。

いくつかの運動で組み立てる

たとえば、イスの上り下りを1分間に30回できた人は、15回やればいいということです。しかし、いつまでたっても同じ回数（量）ではいけません。全所要時間がある程度、短縮されるようになったら、各運動の回数をふやすか、重量（バーベル、ダンベルなど使うものもある）をふやすか、運動の種類をふやすようにします。

一回に3セットやる、ということはすでに述べました。この総所要時間は少くとも十分、多くとも三十分以内が望ましいとされています。十分たらずではトレーニングとして軽すぎ、持久力の向上にプラスしないし、いくらいい運動でも、三十分以上もやれば、疲れが来ます。

しかし、これは若い年代のクラブ活動をやっているような人人を標準にした話ですから、あまりスポーツ経験や体力のない中学生以下、婦人、中年の人たちなどは、五、六分ぐらいから始めて差し支えありません。

また、このトレーニングも継続するところに意味があるので一日おき（週三回）はやりたいものです。

さて、それでは、どんなものをやるか、です。種目については英国の権威者モーガンとアダムソン両氏の手になる〝標準24例〟があり、両氏はこれを、さらに①標準の種目②強い9種目③短い6種目④長い12種目、の四つに分けて、具体例を説明しています。

iii 専門家が考えた具体例

その全部を紹介していては、いくらスペースがあっても足り

ませんので、ここでは①の9例を載せておきます。

（注）図解のさし絵は次のページにあります。

❶イスののぼりおり　イスとは限りません。ベンチでも台でもけっこうです。高さ40～50センチぐらいのものを利用して、片足づつ、のぼったりおりたりを繰り返します。もちろん、あげた方の足から先におろします。胸を張って、両ヒザと腰を完全に伸ばすように気をつけます。

〈効果――脚・全身〉

❷バーピー　立った姿勢から一度しゃがんで、腕立て伏臥の姿勢に移り、ふたたび立った姿勢に戻ります。各姿勢をごまかして、いいかげんにやったりしないこと。

〈効果――脚・全身〉

❸跳びあがり引きあげ　鉄棒や平行棒のような横棒を利用します。手足を伸ばし、棒を順手で握って立ちます。その姿勢からからだをぐっと引きあげます。懸垂に似ていますが、懸垂は跳び上らなければ届かぬ高い鉄棒にぶら下がり、腕の曲げおろしをするので、目的が違います。

〈効果――ひっぱり、全身〉

❹仰臥胸まげ　あおむけにねて、胸の部分だけを前におこします。腰から下を使わないことがポイントです。仰臥のとき太股の上に両手をのばして置いておき、胸を起こすにつれて前方にすべらす。また、このとき、頭を胸の中に入れるような気持ちで前にまげると、運動がうまくできます。

〈効果――腹〉

❺ダンベルとび　ダンベルを持った両腕を下にのばし、30センチぐらいの高さの、低いイスをまたいで立ちます。その姿勢からイスにとびあがったり、おりたりを繰り返します。

〈効果――脚・全身〉

❻バーベルの巻きあげ　バーベルを逆手（下の方から）に握ります。両肘を体側に固定して曲げ、バーベルを肩の高さまで巻くようにしてあげる。

〈効果――背、腕〉

❼ダンベルを持ってヒザの曲げ伸ばし　ダンベルを両手に持ち、体側にのばしたままの姿勢で、しゃがんだり立ったりを繰り返します。

〈効果――脚、全身〉

❽とびあがり腕立て　平行棒の先端を両手で一本づつ握り、自分のアゴの高さに平行棒がくるように調節します。はずみをつけて前上方にとびあがり、腕を伸ばして、からだを支える。

〈効果――押しあげ、全身〉

❾綱振り　なければ一本の綱を両手で持っても差しつかえありませんが、二本並んであればなおよろしい。両ヒジを直角に曲げたかたちでブランコするわけです。

〈効果――ひっぱり、握り〉

重量物の利用

バーベルなど重量物を利用する場合、どのくらいの重さのものを使ったらいいか。これはすでに述べたように①各自の力に合わせる②苦しまずに20～30回やれる程度の重さ――が一般的な原則です。

そうはいっても、メドが立たないといけませんので、標準をあげておきましょう。これらの重さのうちのどれかを選びましょう。

①オモリの巻きあげ（重いものをヒモでぶら下げ、ヒモの先きを棒に巻きつける。棒を握り、ヒモを巻きあげる）――20～30ポンド（9～13・6キロ）

②バーベルの巻きあげ――60、70、80ポンド（27・2、31・7、36・2キロ）

③ダンベルを持ってヒザの曲げのばし――20、30、40ポンド（9、13・5、18・1キロ）

④ダンベル跳び――15、20、25ポンド（6・8、9、11・2キロ）

⑤バーベルをかついでヒザの曲げのばし（文字どおり、バーベルを背中にかつぎあげた姿勢で、しゃがんだり立ったりする運動です）――90、110、130ポンド（40、50、60キロ）

⑥バーベルの振りあげ（順手で握り、上に振りあげる運動です）――50、60、70ポンド（22・7、27・2、31・7キロ）

器具、用具などにこだわるな

工夫ひとつでなんでもできる

以上が標準9例です。しかしこのような例だけがベストというわけではありません。許された状況下で、最大限の工夫をすれば、この例にこだわらず、応用として出来ることは、いくらでもあると思います。

最初に述べたように、サーキットの目的の一つは、からだの各部分の筋力を高め、運動能力をレベルアップしていくことですから、運動の種類が偏らないように気をつけます。そして、例にあるような運動が施設、用具がないため、できないのなら同じ部分の筋肉を鍛える他の運動を考えてみます。

日本の体育館や運動場で、綱振りの綱を備えているところは少ないと思います。その場合どうするのか。綱振りの目的は、腕の引っぱり上げる力、握力を養うことです。

それならば、ブランコの綱、クサリにぶら下がるのでも、立木、棒のぼりの棒、柱、ロクボクなどに、足を使わず手だけで上り下りすることでも代用できるでしょう。

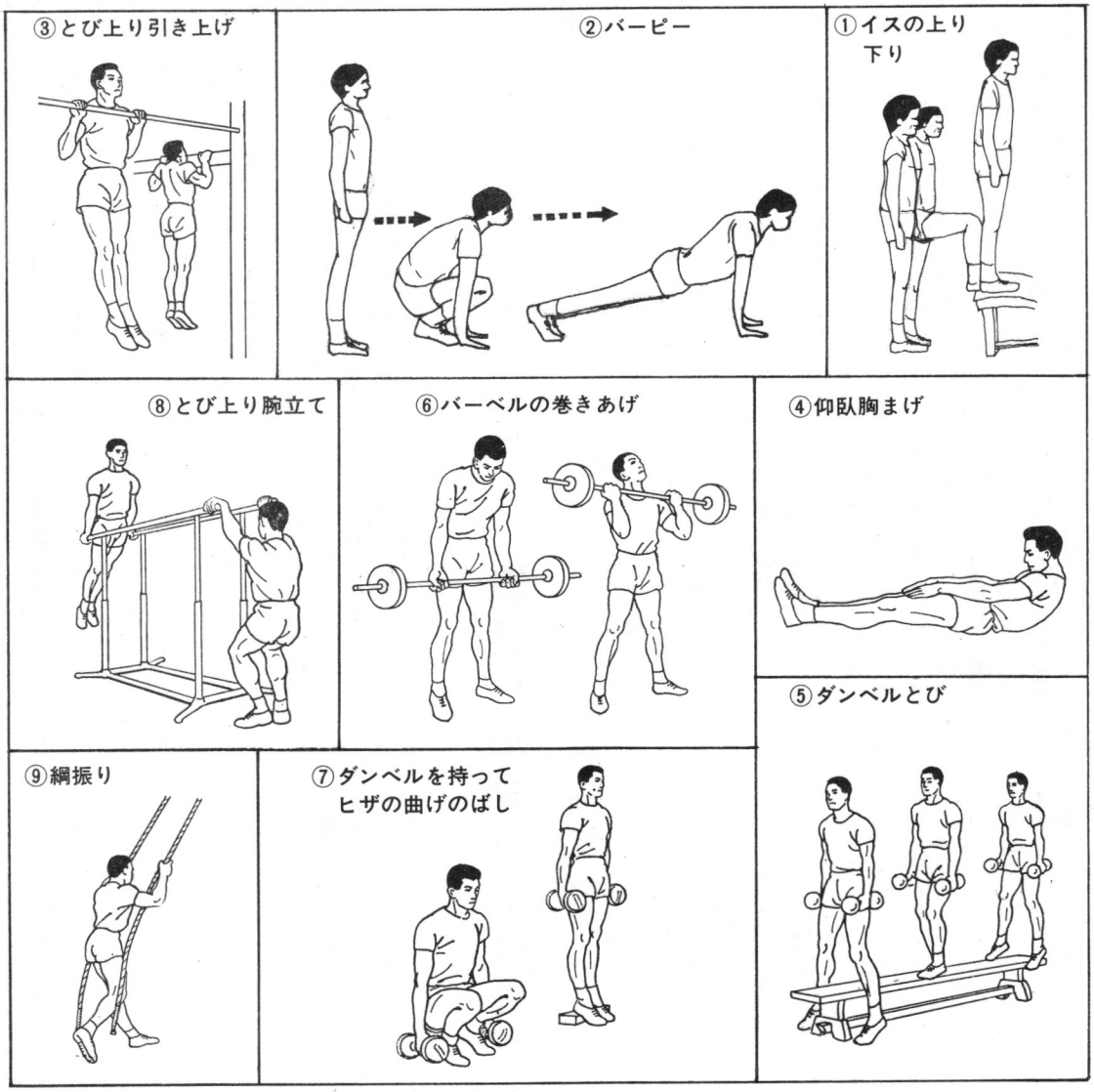
平行棒がなければ鉄棒、それもなければ家のカモイのような所を利用する懸垂でもいいわけでしょう。

バーベルやダンベルがなければ鉄亜鈴（アレイ）を利用するし、それもなければ、ビールびんに砂を詰めて代用できます。エキスパンダーをうまく使えば腕、背、腹、握力をつける運動ができるはずですし、チューブの利用もあります。また全然こうした器具がなくともサーキットはできるでしょう。

バーピーや仰臥胸まげの応用で〝しゃがみ跳び〟（片足を前

サーキットの一例 〈図解〉

（モーガン，アダムソンの“標準９種目”による）



に出した形でしゃがみ、両脚がのび切るまで跳び上がり、反対の足を前に出してまた、しゃがむ）とか〝スクワット・スラスト〟（両手をついてしゃがんだ姿勢から、勢いよく両足を後方にのばし、腕立て伏せの姿勢になり、また元にかえる）とか、腹這いに寝て上半身（下半身）だけ上に起こすとか、仰向けに寝て、両足だけを斜めにあげるなどもあります。

要は工夫しだい。①面倒な器具がいらない種目でセットを組み立てる②一定の場所で全部やれるようにする――ことを優先すればよいのです。また、グループの人々の能力などに応じて最初は種目と種目の間に若干の休み（30秒ほど）を置いても差し支えありません。二人一組になるのもいいでしょう。慣れてきたら内容を高めていけばよろしいのです。

今日、学校の体育の授業には大なり小なり、このサーキットを取り入れている所が多いと思いますが、民間クラブ、教室などでは、なかなか指導者がいないため、むずかしいようです。それだけに、メンバー同士がよく話し合ってやるとか、一人でもこつこつ続ける、ということが大切です。

大会運営規定100問集

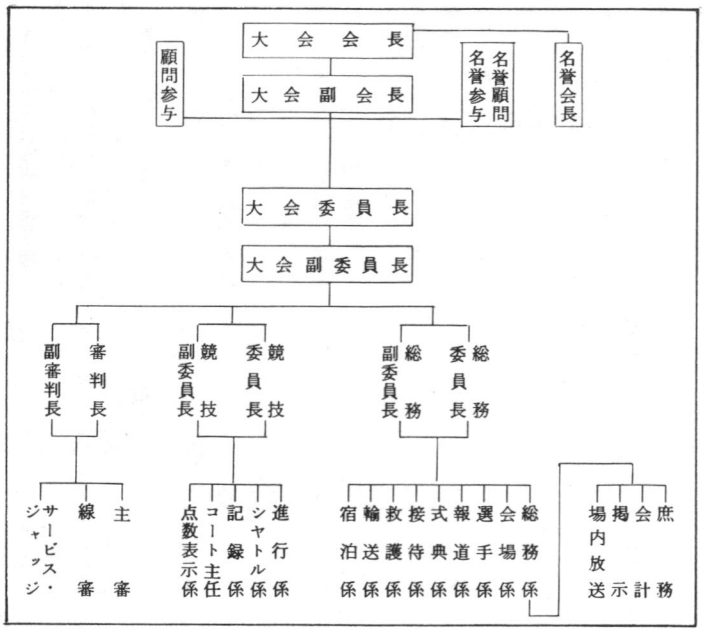
〈第4回〉 日本教職員連盟編

第4章 役員

第12条 大会ごとに通常次の役員を置く。ただし状況によってその名称を変更し、または省略することができる。

問41 役員のところは、ほとんどが細かい表になっていますね。

答 何かわかりにくい感じですね。第12条の最初の表（注、左の欄を見よ）を見ましょう。実際に大会の運営に当る役員は①総務②競技③審判の3本の柱から成り立っていることに注目して下さい。この役員は、大会の大きさなどによって減らしてもかまいませんし、多くしてもよいのです。



第15条 競技委員長は競技の運営中、審判に関する事項を除き、一切の責を負う。

選手、会場の変更および進行順序の変更、中止、延期など一切の問題について最終決定をする。

また必要があれば、大会ルールを制定し、参加全員に適切な方法により明りょうに告示する。

競技終了と同時に成績を確認して入賞者を発表する。

問42 競技委員長の制定する大会ルールについてお話しして下さい。

答 大会ルールは、その大会に心要な特別規定で、例えば第2ゲームと第3ゲームの間のインタバルを何分間とするとか、団体戦で勝敗が決まった後も対抗内の残り試合を行なうか、それとも打ち切るかとか、もし打ち切らない場合、選手を変更できるかどうかとか。

1試合は3ゲーム中の2ゲーム先取で決めるところを1ゲーム戦にするとか、あるいは1ゲーム15点を11点にするとか、プレーヤーは自分の試合の開始予定時刻の30分前には会場に入っていなければならないとか、いったようなことです。

特に同一のプレーヤーが引き続き2試合以上をやる場合には試合間に最低何分休めるかという規定は、運営規定そのものには何も決めてありませんから、ぜひ大会ルールに盛り込んでもらいたいものです。

第5章 審判員

第17条 審判員は審判長、副審判長、主審、サービスジャッジ、線審とする。

審判長は本会一級公認審判員でなければならない。

主審およびサービスジャッジは本会二級以上の審判員でなければならない。

線審は本会三級以上の公認審判員でなければならない。

第18条 審判員はその大会の出場者以外の第三者で、主催者側において定めたものが当る。

第19条 試合の審判には主審1名、サービスジャッジ1名、線審4名が当るのを通例とするが、状況によりサービスジャッジを省略し、線審の数を増減または省略することができる。

問45 審判員はだれが決めるのですか。

答 その大会の主催者が任命します。主管者があるときには実際にはその主管者が決めます。

審判員は出場競技者以外の第三者でなければならないのですが、これは日本協会の主催・主管する大会の基準です。

また、全国大会の中でも、高校大会では昭和46年から「敗者審判」ということを打ち出し、新しい試みとして注目されましたが、高校大会は教育の場という意味合いが強いのですから、これが成功すれば、すばらしい結果を生み出すでしょう。

問47 公認審判員というのがあるそうですが。

答 日本協会には1級から3級までの公認審判員があります。日本協会の会員が試験に合格すれば、この資格をとることができます。

審判長―線審について定めてある級の基準は、望ましい基準なのです。副審判長のことは書いてありませんが審判長のいない会場の責任を持つ場合もあるのですから、少くとも二級以上の実力者であってほしいものですね。

問48 線審が2名しかいない大会をよく見ますが。

答 増減してよいのです。ト杯やユ杯戦には線審が14名もつくことがあります。（続）

◆47年度全日本総合選手権大会（47年12月13日－17日、国立西ケ丘・代々木体育館）＝本文中の掲載分を除く

■男子シングルス

▽1回戦

梅野尾（ヨネヤマ） 15－5 15－0 角田（岐阜東高）
二上（早大） 15－2 15－6 門間（向陽高教）
関（早大体育局） 15－10 15－11 須藤（東奥義塾高）
池田（電電東京） 15－6 15－12 丸山（中大）
鷲尾（スワロー化研） 15－11 15－2 河田（多治見市教委）
秋山（秋山紙店） 15－10 15－8 15－3 田所（法大）
谷口（立大） 15－4 15－7 藤原（打出中教）
本間（トヨタ自工） 15－5 15－7 栗原（桐生商高）
鈴木（電電東京） 15－12 15－1 藤上（滋賀祇王小教）
尾崎（中大） 16－17 9－15 15－6 宮川（カワサキ）
遠藤（日大） 棄権 辻（添上高）
今泉（高岡市役所） 15－8 5－15 15－5 長谷川（藤花高教）
森田（栃木後藤（日大盲学校教） 15－7 6－15 15－6 鶴ケ丘高）

銭谷（中大） 15－5 15－3 竹原（電電近畿）
小島（ヨネヤマ） 15－5 15－2 森（新宮商高教）
梅野尾昌一 15－0 15－9 二上敏博
池田信孝 15－12 15－3 15－4 関一誠
秋山真男 15－6 15－11 鷲尾正一
本間順次 15－4 15－11 谷口寛
尾崎幹雄 15－6 13－18 15－9 鈴木健二
今泉勉 15－8 15－8 15－7 遠藤好男
森田昇 15－1 15－3 13－15 草島正治
小島一平 15－9 15－3 銭谷欽治

▽2回戦

岩田・滝野（電電近畿） 15－4 15－1 斎藤・岡田（法大）
鈴木・池田（電電東京） 15－7 15－6 15－17 長谷川・原
宮川・関（カワサキ、棄権 浅見・尾崎早大職） 不戦勝
秋山・小島（秋山紙店、ヨネヤマ） 15－3 15－8 二上・本間
本間・松島（トヨタ自工） 15－7 13－18 15－2 関村・牧野
田所・草島 15－3 15－2 門間・中西
木戸・栂野尾（ヨネヤマ） 15－7 15－5 九原・飯野
今泉・河村（高岡市役所） 15－7 15－3 瀬戸・杉田
岩田・滝野 15－4 15－5 森・河田（カワボウ、多治見市教）
栗原（東女体大） 12－9 5－11 11－8 横尾（神奈川県庁）
秋本幸（四条畷学高） 11－3 11－4 11－4 高橋（北辰電機）
関村・牧野（高岡市役所、棄権 佐々木・佐々木（千厩高教、大槌高教） 不戦勝
門間・中西（向陽高教、星林高教） 15－12 15－3 9－15 佐藤・山本（北辰電機）
長谷川・原（藤花高教） 15－12 15－6 下田・米山（法大）
二上・本間（早大） 15－6 15－12 別井・森田（今市高教盲学校教）

九原・飯野（日大） 18－16 15－8 藤上、藤原（祇王小教、打出中教）
岩田・滝野（電電近畿） 15－4 15－1 斎藤・岡田（法大）
瀬戸・杉田（産能短大職、立野高教） 15－5 15－10 相川・銭谷（中大）

▽2回戦

池田（日女体大） 11－1 11－3 徳田（四条畷学高）
谷（日体大） 11－2 11－2 天野（東海女短大教）
秋本八（日体大） 11－3 11－3 池尻（茂原高教）
陣内（日体大） 11－5 12－11 本田（千葉学高）
柿本（三菱重工長崎） 12－9 8－11 11－5 塩崎（日女体大）
栗原えり子 棄権 中山紀子（弘文堂）
西尾真理子（日体大） 11－0 11－7 沼能久子（真岡女高）
竹中悦子（ヨネヤマ） 11－5 11－4 秋本幸子
堀川栄美子（日体大） 11－7 11－5 柿本彰子
池田美和 11－5 11－10 4－11 小片千恵子（高松商高教）
谷美津代 12－10 11－3 石崎茂子（電電東京）
秋本八代美 棄権 橋本香代（トヨタ自）
湯木博江（カワサキ） 11－0 11－5 陣内裕子
宮本・光中（小松原女高教、東金子小教） 15－1 18－15 9－15 稲木・岡崎（福井銀行）
川本・森（百十四銀行） 棄権 池尻・時田（茂原高教、木更津二小教）

■女子ダブルス

▽1回戦

石田・吉田（日女体大） 15－5 15－1 長谷川・高井（三条東高）
古谷・佐伯（日体大） 棄権 元橋・鈴木（高根台中教）
秋本幸・徳田（四条畷学高） 15－10 15－11 池田・橋本（トヨタ自工）
山森・陣内（日体大） 15－9 15－2 禿・原田（彦根南中教、しあわせ保育園）
三田・寺見（山陽女高） 15－3 15－12 田所・石原（琴平電鉄）
相沢・竹中（ヨネヤマ） 15－2 15－5 宮本・光中
秋本八・西尾（日体大） 15－7 15－3 井上・薗浦（琴平電鉄）
堀川・谷（日体大） 18－14 11－15 15－9 川本・森
石田・吉田 15－3 15－2 15－8 柿崎・野島（東女体大）
古谷・佐伯 15－6 15－4 小片・横尾（高松商教、神奈川県庁）
秋本幸・徳田 15－12 15－3 1－15 湯木・千葉（カワサキ）
山森・陣内 18－16 16－18 15－10 栗原・名和（東女体大）
池田・塩崎（日女体大） 15－3 15－7 三田・寺見

■混合ダブルス

▽1回戦

遠藤・横尾（日本鋼管、神奈川県庁）15－9 15－11 久保田・宮本（大宮公園、小松原女高教）

◆第22回全日本実業団選手権（47年9月12日－17日、千葉・茂原）

◇…**男子団体戦**…◇

▽4回戦 トヨタ自工3－1国鉄北海道、電電近畿3－0新日鉄名古屋、日立水戸3－2日本電装、河崎ラケット3－2スワロー化研

高岡市役所3－0新日鉄広畑

ヨネヤマラケット3－1名鉄、電電北海道3－2北辰電機、電電東京3－0三菱造船横浜

▽準々決勝

トヨタ自工3－1電電近畿

河崎ラケット3－0日立水戸

高岡市役所3－1ヨネヤマラケット

電電東京3－0電電北海道

▽準決勝

河崎ラケット3－2トヨタ自工

高岡市役所3－0電電東京

▽決　勝

高岡市役所3－0河崎ラケット

◇…**女子団体戦**…◇

▽2回戦 百十四銀行3－1福井銀行、旭光学益子3－1三菱自工京都、三菱電機伊丹3－2河崎ラケット、トヨタ自工3－0日産車体

地崎組3－0北辰電機、ヨネヤマラケット3－2高松琴平電鉄、豊田自動織機3－0鹿児島県庁、電電東京3－0平塚市役所

▽準々決勝

百十四銀行3－0旭光学益子

三菱電機伊丹3－1トヨタ自工

ヨネヤマラケット3－2地崎組

電電東京3－2豊田自動織機

▽準決勝

三菱電機伊丹3－1百十四銀行

電電東京3－0ヨネヤマラケット

▽決　勝

三菱電機伊丹3－2電電東京

◇…**男子シングルス**…◇

▽5回戦 本間（トヨタ自工）2－0遠藤（スワロー化研）、渡辺（横浜市役所）2－0鈴木（三菱横浜造船）、杉山（日本電装）2－0堂谷内（津田駒）、鈴木（電電東京）2－0東（倉庫製錬）

宮川（河崎ラケット）2－0関村（高岡市役所）、椚野尾（ヨネヤマラケット）2－1笠井（関東自工）、竹原（電電近畿）2－1池田（電電東京）、鷲尾（スワロー化研）2－0山崎（関東自工）

▽準々決勝

本間　順次（トヨタ自）15－3 15－6 渡辺　直人（横浜市）

鈴木　健二（電電東京）15－6 杉山　修（日本電装）

椚野尾昌一（ヨネヤマ）15－12 15－10 宮川　秀樹（カワサキ）

鷲尾　正一（スワロー）15－4 15－2 竹原　茂（電電近畿）

▽準決勝

本間　順次 15－5 15－5 鈴木　健二

椚野尾昌一 15－8 15－8 鷲尾　正一

▽決　勝

本間　順次 15－7 15－6 椚野尾昌一

◇…**男子ダブルス**…◇

▽準々決勝 河村・今泉（高岡市役所）2－0本間・松原保（トヨタ自工）、鈴木・池田（電電東京）2－0岩田・滝野（電電近畿）、山本・佐藤（北辰電機）2－0竹原・小野（電電近畿）、椚野尾・木戸（ヨネヤマ）2－0関村・牧野（高岡市役所）

▽準決勝

河村・今泉2－0鈴木・池田

椚野尾・木戸2－0山本・佐藤

▽決　勝

椚野尾・木戸2－1河村・今泉

◇…**女子シングルス**…◇

▽4回戦 湯木（河崎ラケット）2－0薗浦（琴平電鉄）、柿本（三菱重長崎）2－0田村（地崎組）、橋本（トヨタ自工）2－1小浜（三菱電機）、横尾（神奈川県庁）2－1柿本（電電近畿）

高崎（三菱電機伊丹）2－1池田（トヨタ自工）、竹中（ヨネヤマラケット）2－0川本（三菱電機長崎）、石崎（電電東京）2－0大矢根（琴平電鉄）、高橋（北辰電機）2－1森（百十四銀行）

▽準々決勝

湯木　博江（カワサキ）11－5 12－10 柿本　彰子（三菱重）

横尾　節子（神奈川県）11－1 11－9 橋本　香代（トヨタ自）

竹中　悦子（ヨネヤマ）11－8 11－4 高崎　弘子（三菱伊丹）

石崎　茂子（電電東京）11－2 11－0 高橋　英子（北辰電機）

▽準決勝

湯木　博江 11－2 11－9 11－1 横尾　節子

石崎　茂子 11－5 11－3 竹中　悦子

▽決　勝

湯木　博江 11－4 11－2 11－6 石崎　茂子

◇…**女子ダブルス**…◇

▽準々決勝 井上・薗浦（琴平電鉄）キケン石崎・藤井（電電東京）、柴山・高崎（三菱電機伊丹）2－0橋本・池田（トヨタ自工）、田所・石原（琴平電鉄）キケン（対戦相手なし）、湯木・千葉（河崎ラケット）2－0森・川東（百十四銀行）

▽準決勝

井上・薗浦2－0柴山・高崎

湯木・千葉2－0田所・石原

▽決　勝

湯木・千葉2－0井上・薗浦

◇…**混合ダブルス**…◇

▽準々決勝 堺・湯木（カワサキ）2－0遠藤・大塚（スワロー化研）、鈴木・石崎（電電東京）2－0佐藤・高橋（北辰電機）

武田・辻田（豊田織機）2－1小山・横尾（神奈川県庁）、池田・阿久津（電電東京）2－0宮川・千葉（カワサキ）

▽準決勝

堺・湯木2－0鈴木・石崎

池田・阿久津2－0武田・辻田

▽決　勝

堺・湯木2－0池田・阿久津

◇…**男子年齢別**…◇

▽30歳シングルス準々決勝

川上（不二越）2－0渋井（国鉄北海道）、小松（岡山市役所）2－0黒崎（北辰電機）、小山（神奈川県庁）2－0大野（十条製紙伏木）、遠藤（日本鋼管）2－0藤井（岡山市役所）

▽準決勝

川上洋一2－0小松貴、遠藤啓治2－0小山包博

▽決　勝

川上洋一2－1遠藤啓治

▽30歳ダブルス準決勝 大野・堺（十条製紙伏木）2－1小松・藤井（岡山市役所）、星野・井門（電電東京）2－1小山・池成（神奈川県庁）

▽決　勝

大野・堺2－0星野・井門

▽40歳シングルス準々決勝
浜中（丸善石油）2－0横井（クラレ西条）、森脇（国際電気）2－0岡本（岡山市役所）、畑（福井県庁）2－0小林（三菱電機神戸）、中島（大村市役所）2－0谷口（クラレ西条）
▽準決勝
浜中　誠2－0森脇等夫
畑　忠雄2－0中島恭二
▽決　勝
畑　忠雄2－0浜中　誠
▽40歳ダブルス準決勝　佐々木・浅井（国鉄後藤）2－0伊藤・小林（三菱電機神戸）、横井・谷口（クラレ西条）2－0尾崎・大平（三菱電機神戸）
▽決　勝
横井・谷口2－0佐々木・浅井

長崎県

◆第18回全九州実業団社会人選手権大会（12月2日、3日・長崎国際体育館）
◇男子団体戦
▽1回戦　住金小倉3－2昭電大分、三菱電機長崎B（棄権）鹿児島県庁、日田市役所3－2三菱重工長崎B、北九州市役所3－2新日鉄大分
▽2回戦　三菱重工長崎A3－0住金小倉、三菱電機長崎B4－1佐世保重工、日田市役所3－2三菱化成黒崎、三菱電機長崎A3－0北九州市役所
▽準決勝　三菱重工長崎A3－0三菱電機長崎B、日田市役所3－0三菱電機長崎A
▽決　勝　三菱重工長崎A3－2日田市役所
◇女子団体戦
▽1回戦　三菱電機長崎B（棄権）鹿児島県庁B、三菱電機長崎A3－0三菱化成黒崎
▽準決勝　三菱電機長崎B3－0住金小倉、三菱電機長崎A（棄権）鹿児島県庁A
▽決　勝　三菱電機長崎B2－1三菱電機長崎A
◇青年シングルス
▽準々決勝　宮崎（長崎）2－0芦原（熊本）、厚ケ瀬（鹿児島）2－0前田（長崎）、野見山（福岡）2－0一ノ瀬（長崎）、中野（長崎）2－1福丸（長崎）
▽準決勝　宮崎2－1厚ケ瀬
野見山2－0中野
▽決　勝　野見山弘次2－0宮崎博幸
◇青年ダブルス
▽準々決勝　中野・辻（長崎）2－0春野・松田（長崎）、一ノ瀬・末吉（長崎）2－0桶本・奥田（福岡）
春武・宮原（大分）2－0淵上・林辺（福岡）、福丸・宮崎（長崎）2－0平野前田（長崎）
▽準決勝　中野・辻2－1一ノ瀬・末吉、春武・宮原2－0福丸・宮崎
▽決　勝　春武・宮原2－0中野・辻
◇成年シングルス
▽準決勝　南（熊本）2－0竹下（長崎）、香島（長崎）2－0山市（長崎）
▽決　勝　香島正佳2－0南直治
◇成年ダブルス
▽準決勝　引地・峯本（熊本）2－0山崎・山市（長崎）、喜多・中岡（長崎）2－0栄・江原（長崎）
▽決　勝　喜多・中岡2－0引地・峯本
◇壮年シングルス　▽決勝　本郷（熊本）2－0沢田（熊本）
◇壮年ダブルス　▽決勝　本郷・沢田（熊本）2－0岩永・福田（熊本）
◇老年シングルス　▽決勝　伊藤（熊本）2－0山本（熊本）
◇老年ダブルス　▽決勝　伊藤・平崎（熊本）2－0田口・松尾（福岡）
◇女子青年シングルス
▽準決勝　柿本（長崎）2－0川本（長崎）、小浜（長崎）2－0丸山（福岡）
▽決　勝　柿本彰子2－0小浜孝子
◇女子青年ダブルス
▽準決勝　小浜・関（長崎）2－0坂本・蒲池（大分）、柿本・樋口（長崎）2－0川本・斎藤（長崎）
▽決　勝　柿本・樋口2－0小浜・関

香川県

◆47年度県総合選手権大会（48年1月7日、14日・香川県立体育館）
◇男子団体戦
▽1回戦　高松市協会B4－1川崎重工、県庁（不戦勝）、坂工OB3－1高松高、高松市役所3－1善通寺一高
▽2回戦　高松商3－0高松市協会、県庁（不戦勝）、坂工OB3－1高松市役所
▽準決勝　高松商3－0県庁
坂工OB3－1高松市役所
▽決　勝　高松商3－1坂工OB
◇女子団体戦
▽1回戦　高瀬高3－2香川大、善通寺一高5－0琴平高
▽準決勝　琴平電鉄3－0高瀬高、百十四銀行3－0善通寺一高
▽決　勝　百十四銀行3－2琴平電鉄
◇男子シングルス
▽準々決勝　大西（トヨタカローラ香川）2－0吉川（RNC）、栗（高商）2－0阿部（高松市役所）、日下（中大）2－0田中（坂工）、横田（中大）2－0辻本（田中鉄工）
▽準決勝　大西2－0栗、日下2－0横田
▽決　勝
日下（15－8、15－7）大西
◇男子ダブルス
▽準々決勝　東条・藤原（琴電・坂工教）2－0秋山・福崎（善通寺市役所・青学）、三野・英（関東学・明大）2－0中原・木下（中大・法大）
辻本・竹林（田中鉄工・日体大）2－0栗・北谷（高松高、高商）、横田・日下（中大）2－0森田・喜岡（善一教・琴高教）
▽準決勝　三野・英2－0東条・藤原、横田・日下2－0辻本・竹林
▽決　勝
横田（15－11、15－7）三野
日下　英
◇女子シングルス
▽準々決勝　井上（琴電）2－0高国（百十四銀行）、川東（百十四銀行）2－0山内（善一）、田所（琴電）2－1白玖

（青学）、小片（高商教）2－1森（百十四銀行）

▽準決勝　井上2－0川東、小片2－0田所

▽決　勝

小片（11－1 11－2）井上

◇女子ダブルス

▽準決勝　森・川東（百十四銀行）2－0田所・石原（琴電）

井上・薗浦（琴電）2－0高国石井（百十四銀行）

▽決　勝

井上（13－15 15－8 15－6）森
薗浦　　川東

岡山県

◆47年度県秋季選手権大会（12月3日、10日・岡山大学清水記念体育館）

◇男子シングルス

▽準々決勝　柳本（教員）2－0田中博（岡大）、岡浩（岡大）2－0永井（川鉄）、高木（岡OB）2－0毛利（山陽）、上野（三井）2－1市原（岡大）

▽準決勝　岡浩2－0柳本、高木2－0上野

▽決　勝

岡浩（15－12 15－0）高木

◇男子ダブルス

▽準々決勝　上野・芳上（三井）2－1片山・山崎（岡大）

田丸・松井（三井）2－0岡・小田（岡大）

藤井・高木（岡OB）2－0藤原・万代（三井）、毛利・柳本（教員）2－0浜中・市原（岡大）

▽準決勝　上野・芳上2－1田丸・松井、藤井・高木2－0毛利・柳本

▽決　勝

上野（15－10 15－8）藤井
芳上　　高木

◇女子シングルス

▽準々決勝　鈴木（伊予B）2－0守屋博（清心）、西岡（岡大）2－0田村（岡大）、阿部（岡大）2－0藤原（川鉄）木村（中国B）2－0竹中（岡大）

▽準決勝　西岡2－0鈴木、木村2－1阿部

▽決　勝

木村（11－3 11－5）西岡

◇女子ダブルス

▽準々決勝　阿部・西岡（岡大）2－1木村・鈴木（中国、伊予）、西尾・笹尾（山陽OG）2－0尾銭・守屋（清心）

日岡・片田（岡大）2－0沼本・守屋（清心）、江田・小笠原（岡大）2－0大森・平井（清心）

▽準決勝　阿部・西岡2－1西尾・笹尾、日岡・片田2－0江田・小笠原

▽決　勝

日岡（15－3 15－4）片田
西岡　　日岡

愛知県

◆第17回名古屋市民選手権大会（12月17日、24日・名古屋市体育館）

◇男子シングルス

▽準々決勝　伊村（名鉄）2－0松波（三菱重）、加藤（名鉄）2－0楠瀬（名城大）、中橋（三菱重）2－0平松（市役所）、平野（県立大）2－0山下（桜山ク）

▽準決勝　加藤2－1伊村、中橋2－0平野

▽決　勝

加藤（15－8 15－0）中橋

◇男子ダブルス

▽準々決勝　菱田・加藤（名鉄）2－0野田・大橋（名大）

稲熊・野村（桜山ク）2－0野口・飯村（名城、中京大）

伊村・村上（名鉄）2－1中橋・松波（三菱重）、平松・清水（市役所）2－0久留宮・楠瀬（名大）

▽準決勝　菱田・加藤2－0稲熊・野村、伊村・村上2－0平松・清水

▽決　勝

伊村
村上（15－9 13－18 15－11）菱田
　　加藤

◇女子シングルス

▽準々決勝　堀（名鉄）2－1神谷（名城大）、内田（名鉄）2－0加藤（愛教大）、川島（愛教大）2－0河口（名鉄）、高村（愛教大）2－0岡留（南山大）

▽準決勝　堀2－0内田、高村2－1川島

▽決　勝

堀（11－3 11－5）高村

◇女子シングルス

▽準々決勝　内田・河口（名鉄）2－0青木・杉山（教室ク）

加藤・高村（愛教大）2－1神谷・赤木（名城大）

堀・波多野（名鉄）2－0金子・鈴木（金城）、岩田・山川（豊田通商）2－0本田・安藤（名女大高）

▽準決勝　内田・河口2－0加藤・高村、堀・波多野2－0岩田・山川

▽決　勝

堀
波多野（15－12 15－13）内田
　　河口

大阪府

◆第7回近畿教職員選手権大会（48年1月15日・大阪市立阿倍野体育館）

▽一般男子シングルス決勝

森（15－5 15－4）久保田
（和歌山）　（滋賀）

（3位は滋賀・藤原、大阪・杉田）

▽一般男子ダブルス決勝

門間・中西（17－14 4－15 15－8）藤上信・藤原（和歌山）

（3位は大阪・杉田、伊勢田滋賀・久保田、藤上英）

▽30代男子シングルス決勝

水野（15－0 15－0）児島
（大阪）　（兵庫）

（3位は滋賀・寺田、北村）

▽30代男子ダブルス決勝

北野・宝来（13－15 15－8 15－12）寺田・北村
（大阪）　（滋賀）

（3位は兵庫・児島、三木と同じく上月、高山）

▽40代男子シングルス決勝

宮脇（15－4 15－2）青木
（大阪）　（大阪）

（3位は兵庫・吉持、大阪・斎藤）

▽40代男子ダブルス決勝

宮脇・島津（15－4 15－7）青木、斎藤
（大阪）　（大阪）

▽一般女子シングルス決勝

泊（11－7 11－9）禿
（大阪）　（滋賀）

（3位は滋賀・原田、大阪・東堤）

▽一般女子ダブルス決勝

禿・原田（15－10 15－9）泊・東堤
（滋賀）　（大阪）

今月のことば

豆腐屋は朝早いから、午後昼寝をするんです。その眠いのを辛抱して合理化、近代化の講習に出るわけですが、その間眠っていて努力しない豆腐屋は値段を下げられないでしょうね——十五円豆腐を売っている東京・足立区の豆腐製造業・吉腰勝義さん

仕事や勉強ばかりとは限らない。芸事、遊び、趣味だって、いいかげんにやっては、モノにならない。みな人知れず努力をしているからこそ、それぞれの分野で「さすがは」といわれるような〝足跡〟を残すのだ。

引き合いに出した談話は、さる日の新聞に載ったもの。大豆の品不足で、豆腐が高くなったと、世の奥様族が叫び出したころ、記事になった中の一コマである。

一日はだれでも24時間

うまく使うにも相当の努力がいる

人間の一日は、王様でも乞食でも、天才でもバカでも、すべて平等に24時間に決まっているが、いや、決まっているからこそ、それをどう使うかで、その人の業績がちがってくる。

よく、ヒマはあるものではなくて、つくるものだ、といわれる。時間が足りない、と人はグチをこぼす。人間、なにかに意欲的に立ち向かえば、実際いくら時間があっても、これでいいとはいえない。

しかし、大方の場合を見ていると、忙しくてヒマがないというのは、あんまりいろんなことをやりすぎるから、大事なことをやる時間がなくなるか、なんとなくムダに使っているからか、どちらかのことが多い。

学問とスポーツは両立するかとの質問が、しばしば編集部にも舞い込む。筆者にいわせればそんなことを聞くヒマがあったら、両立の努力をしなさい、といいたい。

するかどうかではなく、させるのが本当だ。努力もしてみないのに、どうかしら、では、どうにもなるはずがない。させる努力とは、どうしたらできるかを考えることであり、その中で最も実行できやすいことを、いますぐ、やってみることだ。

学問とスポーツの両立だけでも、実際は大変な苦労がいる。マンガも読む、テレビも見る、デートもする……そのどれもが自分にとって、同じように大切で、捨てられないのなら、スポーツならスポーツで、一流になろうと考えない方が無難だ。

それも一つの生き方、悪いことはない。ただ、なんでも少しづつ幅広く、には、やはり問題がある。それは気のおもむくまま、イヤになればやめる、という繰り返しだと、苦労がないからだ。

人生にはなにが起こるかわからない。一つのことを一生懸命やれば、カベにぶち当る時期が来る。そしてそれを乗り越えることにより、人は強くなる。しかし苦しんだことのない人は、苦しみに対処する方法がわからない。

試験を苦に自殺、などという新聞記事が最近目立つが、その遠因にいま述べたような生活の実態はないだろうか。

第2回国際女子を特集

〈次号予告〉

次号は、一月末から二月初めにかけて行なわれた、第二回国際女子競技大会を特集します。

来日メンバーには、カガード夫人、フリント（デンマーク）のダブルス名コンビは残念ながら姿を見せませんでしたが、初来日の選手を加え、いずれも欧州のトップ級ぞろい。ユ杯保持国とはいえ、選手の交代期にさしかかった日本女子の将来のために、またとない機会をつくりました。

次号では全試合の詳報はもちろんのこと、欧州勢の長所、日本の収獲、裏話などをもれなく収録、合わせて多彩な写真を豊富に登場させます。

編集室

また年が変わった。69年夏に創刊した本誌も、はや足かけ5年になったわけだ。その間の歩みは、まことにつたなくて力不足、読者各位に怒られることばかりだった。しかし、どうか見放さずに今後も支援して下さるようお願いします。

〝シリーズ人間〟いかがでしょうか。毎号ではなくとも、折りにふれ、この種の読みものを続けていくつもりです。

訂正

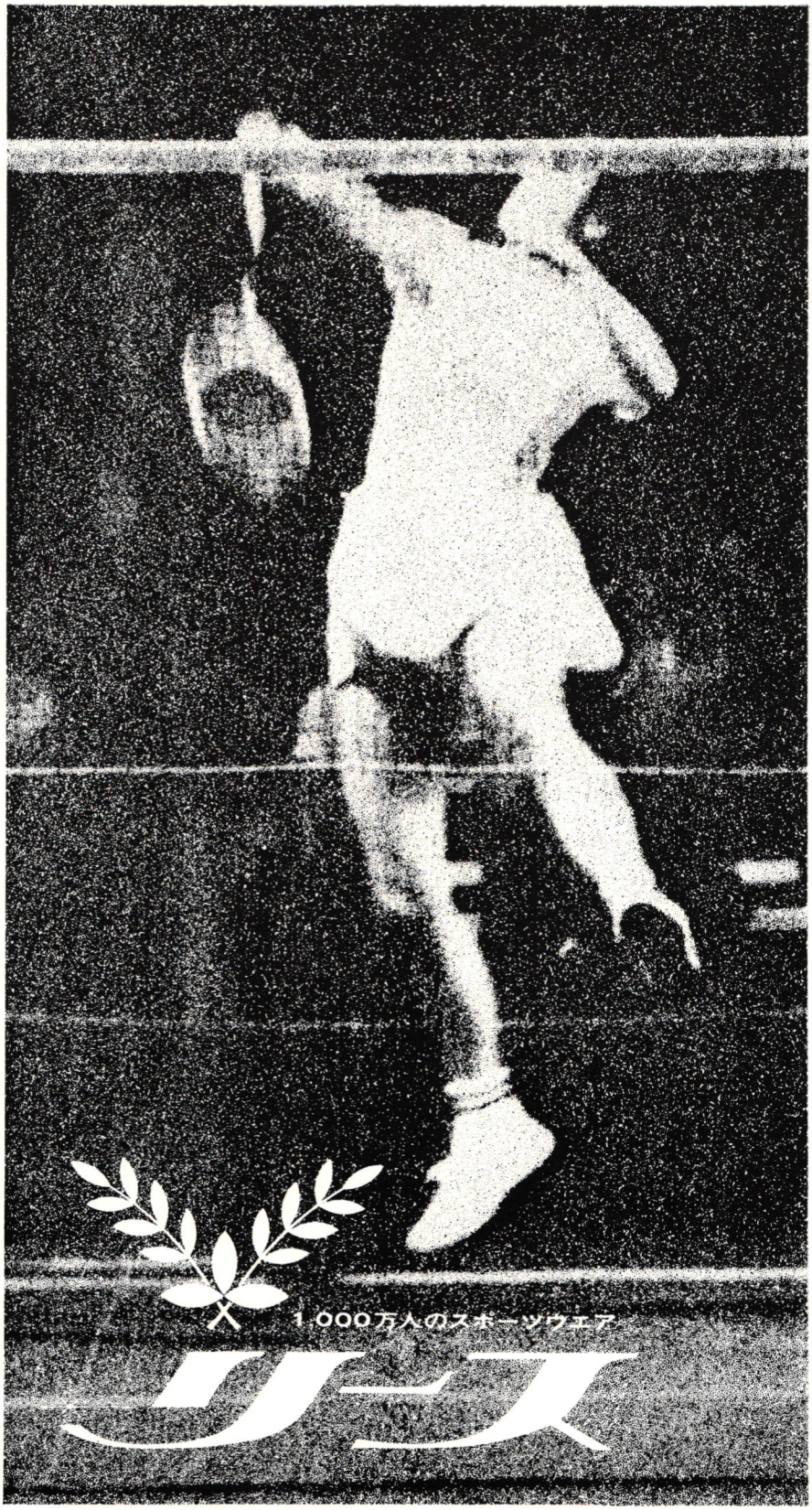
このほか、一月中ばに交流が正式に決まった中国との問題も考えておりますが、限りあるスペースなので、場合によっては次号まわしの可能性があります。なお次号は編集の都合上、二、三月合併号とします。

前号の全日本学生選手権の記事中、見出しの一部が「複は…池田組（日女）」というのは「堀川・谷組（日体大）」の誤りでした。お詫びして訂正します。

【バドミントン界】第40号
昭和47年12月25日　印刷
昭和48年1月1日　発行
編集兼発行人　川端昇市
発行所　東京都渋谷区神南一の一の一
岸記念体育館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線二五一）
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都豊島区南大塚二一二九
明宏印刷株式会社
定価　一部　百三十円

©無断転載を禁ず

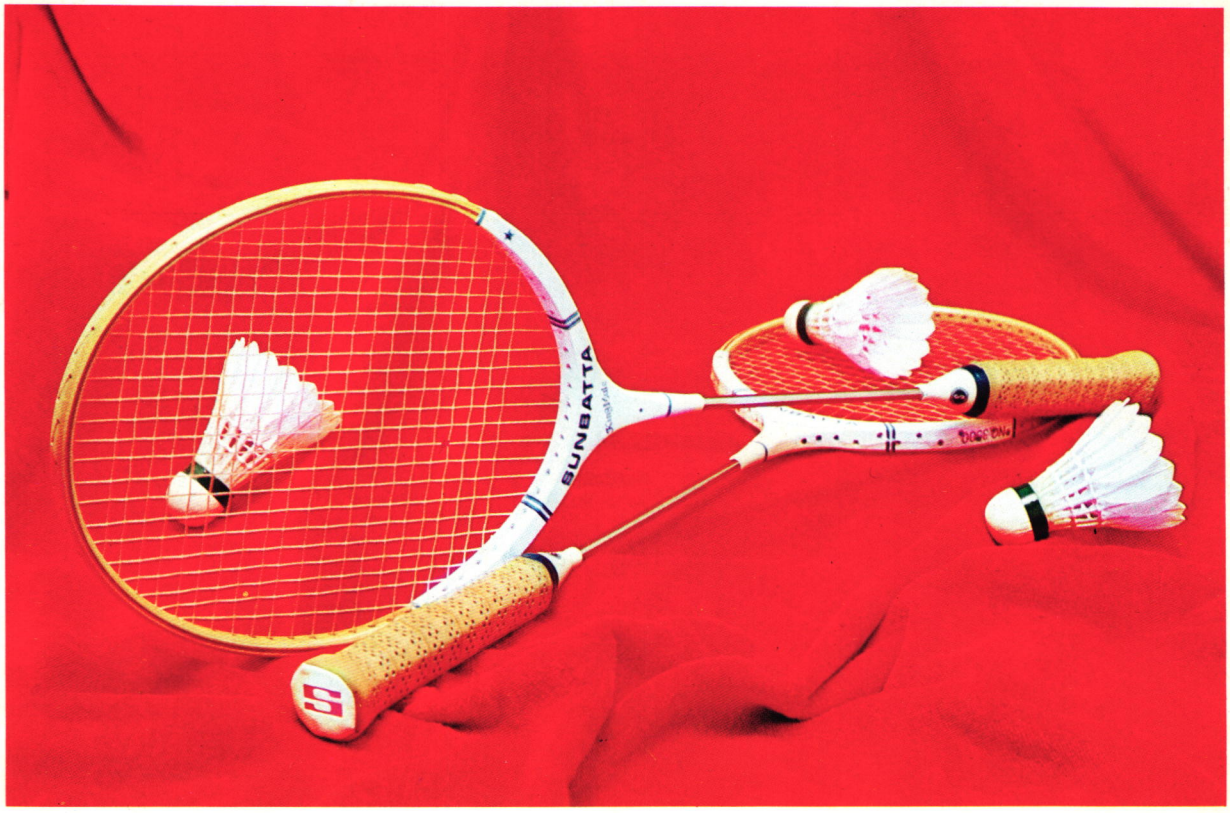
この一瞬!!



あなたはひかる――はげしい動き、ふき出す汗、すべての条件を
プレイヤー本位に満たすカワサキの〝リース〟はあなたのウエアです。

K TOKYO
河崎ラケット工業株式会社
東京都台東区台東2-28-5 電話(831)-1884・0453

月刊「バドミントン界」第40号
昭和四十八年一月一日発行（毎月一回一日発行）
発行所 東京都渋谷区神南一ノ一ノ一 岸記念体育会館内 日本バドミントン協会
定価百三十円



NO.3500 KING MATE SunBatta STRAIGHT PIPE

究明され！
完成された！
BADMINTON RACKET AND SHUTTLE COCK

力学的観点から最新の技術を導入し完成されたラケット。耐久性、飛行距離そして1グレーンのカベを究明されたシャトルコック。

プレーヤーの一挙手一動を観察し対話を続け、プレーヤーが何を求めているか、どのような製品を必要としているかを究明し完成させてまいりました。

国際大会及び国内大会、これらに参加すべく一時の暇もおしみ練習を重ねているプレーヤーの皆様に安心して御使用いただける製品を提供するよう日夜努力を致しております。

SunBatta TOKYO サンバタ